

**建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（仮称）における  
算定方法等に係る事項の概要（案）  
【パブリックコメント資料からの変更箇所明示版】**

**第 1 非住宅部分に係る事項**

1 非住宅部分に係る設計一次エネルギー消費量の算出に関する事項（別紙 1 の 1 - 2 関係）

非住宅部分に係る設計一次エネルギー消費量の算出に関し国土交通大臣が定める方法は、次のとおりとする。

(1)  $E_{AC}$ は、次のイからホまでに定める方法により算出する。

イ  $E_{AC}$ は、以下の式により算出する。

$$E_{AC} = \sum_i^{n_{AHU}} \sum_d^{D_{AHU,i}} E_{AC,AHU,d,i} + \sum_i^{n_{PUMP}} \sum_d^{D_{PUMP,i}} E_{AC,PUMP,d,i} + \sum_i^{n_{REF}} \sum_d^{D_{REF,i}} E_{AC,REF,d,i}$$

この式において、 $E_{AC,AHU,d,i}$ 、 $D_{AHU,i}$ 、 $n_{AHU}$ 、 $E_{AC,PUMP,d,i}$ 、 $D_{PUMP,i}$ 、 $n_{PUMP}$ 、 $E_{AC,REF,d,i}$ 、 $D_{REF,i}$ 及び $n_{REF}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{AC,AHU,d,i}$  日付dにおける空気調和機等iの1日当たりの設計一次エネルギー消費量（単位 1日につきメガジュール）

$D_{AHU,i}$  空気調和機等iの年間稼働日数（単位 日）

$n_{AHU}$  当該空気調和設備内の空気調和機等の数（単位 台）

$E_{AC,PUMP,d,i}$  日付dにおけるポンプ等iの1日当たりの設計一次エネルギー消費量（単位 1日につきメガジュール）

$D_{PUMP,i}$  ポンプ等iの年間稼働日数（単位 日）

$n_{PUMP}$  当該空気調和設備内のポンプ等の数（単位 台）

$E_{AC,REF,d,i}$  日付dにおける熱源機器等iの1日当たりの設計一次エネルギー消費量（単位 1日につきメガジュール）

$D_{REF,i}$  熱源機器等iの年間稼働日数（単位 日）

$n_{REF}$  当該空気調和設備内の熱源機器等の数（単位 台）

ロ  $E_{AC,AHU,d,i}$ 及び $E_{AC,PUMP,d,i}$ については、各機器が処理する暖冷房負荷を算出し、この負荷の大きさに応じて機器のエネルギー消費特性が変化することを考慮した上で、エネルギー消費量を求めるものとする。

ハ  $E_{AC,REF,d,i}$ については、各機器が処理する暖冷房負荷を算出し、この負荷の大きさ及び気象条件に応じて機器の能力及びエネルギー消費特性が変化することを考慮した上で、エネルギー消費量を求めるものとする。

ニ 暖冷房負荷の算出については、次のとおりとする。

(イ) 次に掲げる事項については、室用途ごとに定められる標準的な室の使用条件を用いること。

- (i) 空気調和設備の運転時間及び温度設定
- (ii) 居住者の在室時間、在室人数、発熱量及び発湿量
- (iii) 照明設備、OA機器等の使用時間及び発熱量
- (iv) 外気の入取時間及び取入量

(ロ) 気象条件については、地域の区分(別表10に掲げる地域の区分をいう。以下同じ。)ごとの気象情報を用いること。

(ハ) 暖冷房負荷の算出に当たっては、次に掲げる熱を勘案すること。

- (i) 室温と外気温との温度差によって外壁、窓等を貫流する熱
- (ii) 日射の吸収又は夜間放射によって発生する熱
- (iii) 照明設備、OA機器、人体その他室内に存する物体から発生する熱
- (iv) 取入外気の熱

ホ エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表1に掲げる値を用いる。

(2)  $E_V$ は、次のイからニまでに定める方法により算出する。

イ  $E_V$ は、次の式により算出する。

$$E_V = \sum_i^n \sum_d^{D_i} (E_{V,i} \times T_{V,d,i} \times F_{V,i}) \times f_{\text{prim}} \times 10^{-6}$$

この式において、 $E_{V,i}$ 、 $T_{V,d,i}$ 、 $F_{V,i}$ 、 $D_i$ 、 $n$ 及び $f_{\text{prim}}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{V,i}$  機械換気設備iの消費電力(単位 ワット)

$T_{V,d,i}$  日付dにおける機械換気設備iの1日当たりの運転時間(単位 時間)

$F_{V,i}$  機械換気設備iの制御方法に応じて定められる係数(単位 無次元)

$D_i$  機械換気設備iの年間稼働日数(単位 日)

$n$  非住宅部分における機械換気設備の数(単位 台)

$f_{\text{prim}}$  別表1に掲げる電気の量1キロワット時を熱量に換算する係数(単位 1キロワット時につきキロジュール)

ロ 機械換気設備は、次の(イ)から(ハ)までに掲げる機器とする。

- (イ) 給気機
- (ロ) 排気機
- (ハ) その他機械換気設備の種類に応じて必要となる機器

ハ  $T_{V,d,i}$ は、室用途ごとに定められる標準的な室の使用時間を用いる。

ニ  $F_{V,i}$ の算出に当たっては、高効率電動機、インバータ、送風量制御等の採用の有無を勘案するものとする。

(3)  $E_L$ は、次のイからハまでに定める方法により算出する。

イ  $E_L$ は、次の式により算出する。

$$E_L = \sum_i^n \sum_d^{D_i} (E_{L,i} \times T_{L,d,i} \times F_{L,i} \times C_{L,i}) \times f_{\text{prim}} \times 10^{-6}$$

この式において、 $E_{L,i}$ 、 $T_{L,d,i}$ 、 $F_{L,i}$ 、 $C_{L,i}$ 、 $D_i$ 、 $n$ 及び $f_{\text{prim}}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{L,i}$  照明設備*i*の消費電力（単位 ワット）

$T_{L,d,i}$  日付*d*における照明設備*i*の1日当たりの運転時間（単位 時間）

$F_{L,i}$  照明設備*i*の制御方法に応じて定められる係数（単位 無次元）

$C_{L,i}$  照明設備*i*を設置する室の形状に応じて定められる係数（単位 無次元）

$D_i$  照明設備*i*の年間稼働日数（単位 日）

$n$  非住宅部分における照明設備の数（単位 台）

$f_{\text{prim}}$  別表1に掲げる電気の量1キロワット時を熱量に換算する係数（単位 1キロワット時につきキロジュール）

ロ  $T_{L,d,i}$ は、室用途ごとに定められる室の標準的な使用時間を用いる。

ハ  $F_{L,i}$ の算出に当たっては、在室検知制御、明るさ検知制御、タイムスケジュール制御等の採用の有無を勘案するものとする。

(4)  $E_w$ は、次のイからハまでに定める方法により算出する。

イ  $E_w$ は、次の式により算出する。

$$E_w = \sum_i^n \sum_d^{D_i} \left( \frac{Q_{w,d,i}}{\eta_{w,d,i}} \right) \times 10^{-3}$$

この式において、 $Q_{w,d,i}$ 、 $\eta_{w,d,i}$ 、 $D_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$Q_{w,d,i}$  日付*d*における給湯設備*i*の1日当たりの給湯負荷（単位 1日につきキロジュール）

$\eta_{w,d,i}$  日付*d*における給湯設備*i*のシステム効率（単位 無次元）

$D_i$  給湯設備*i*の年間稼働日数（単位 日）

$n$  非住宅部分における給湯設備の数（単位 台）

ロ  $Q_{w,d,i}$ は、次に掲げる事項を勘案して算出する。

(イ) 地域の区分ごとに定められる外気温度及び給水温度

(ロ) 給湯配管からの熱損失量

(ハ) 室用途ごとに定められる標準的な1日当たりの使用湯量

(ニ) 節湯器具の使用

(ホ) 太陽熱利用等の予熱設備の有無

ハ エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表1に掲げる値を用いる。

(5)  $E_{Ev}$ は、次のイ及びロに定める方法により算出する。

イ  $E_{EV}$ は、次の式により算出する。

$$E_{EV} = \sum_i^n \sum_d^{D_i} \left( \frac{L_{EV,i} \times V_{EV,i} \times C_{EV,i} \times T_{EV,d,i} \times N_{EV,i}}{860} \right) \times f_{prim} \times 10^{-3}$$

この式において、 $L_{EV,i}$ 、 $V_{EV,i}$ 、 $C_{EV,i}$ 、 $T_{EV,d,i}$ 、 $N_{EV,i}$ 、 $D_i$ 、 $n$ 及び $f_{prim}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$L_{EV,i}$  昇降機系統*i*の積載質量 (単位 キログラム)

$V_{EV,i}$  昇降機系統*i*の定格速度 (単位 1分につきメートル)

$C_{EV,i}$  昇降機系統*i*の制御方法に応じて定められる係数

$T_{EV,d,i}$  日付*d*における昇降機系統*i*の1日当たりの運転時間 (単位 時間)

$N_{EV,i}$  昇降機系統*i*に属する昇降機の台数 (単位 台)

$D_i$  昇降機系統*i*の年間稼働日数 (単位 日)

$n$  非住宅部分における昇降機の対象系統数

$f_{prim}$  別表1に掲げる電気の量1キロワット時を熱量に換算する係数 (単位 1キロワット時につきキロジュール)

ロ  $C_{EV,i}$ は、昇降機の種類を勘案するものとする。

(6)  $E_S$ は、次のイからハまでに定める方法により算出する。

イ  $E_S$ は、次の式により算出する。

$$E_S = \sum_i^n \sum_d^{D_i} E_{S,d,i}$$

この式において、 $E_{S,d,i}$ 、 $D_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{S,d,i}$  日付*d*におけるエネルギー利用効率化設備*i*による1日当たりの一次エネルギー消費量の削減量 (単位 1日につきメガジュール時)

$D_i$  エネルギー利用効率化設備*i*の年間稼働日数 (単位 日)

$n$  当該非住宅部分における算出対象エネルギー利用効率化設備の数

ロ  $E_{S,d,i}$ の算出に当たっては、気象条件並びに設備の性能及び設置状況を勘案するものとする。

ハ エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表1に掲げる値を用いる。

(7)  $E_M$ は、次の式により算出する。

$$E_M = \sum_i^n (\alpha_{SM,i} \times A_i)$$

この式において、 $\alpha_{SM,i}$ 、 $A_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\alpha_{SM,i}$  室*i*の室用途ごとに別表2に掲げるその他設備等に係る係数 (単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$A_i$  室*i*の床面積の合計 (単位 平方メートル)

n 非住宅部分における対象となる室の数

- 2 非住宅部分に係る基準一次エネルギー消費量の算出に関する事項(別紙1の1-3、2-2関係)  
非住宅部分に係る基準一次エネルギー消費量の算出に関し国土交通大臣が定める方法は、次のとおりとする。

(1)  $E_{SAC}$ は、次の式により算出する。

$$E_{SAC} = \sum_{i=1}^n (\alpha_{SAC,i} \times A_i)$$

この式において、 $\alpha_{SAC,i}$ 、 $A_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\alpha_{SAC,i}$  室 $i$ の室用途及び地域の区分ごとに別表2に掲げる空気調和設備に係る係数(単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$A_i$  室 $i$ の床面積の合計(単位 平方メートル)

$N$  非住宅部分における空気調和対象室の数

(2)  $E_{SV}$ は、次の式により算出する。

$$E_{SV} = \sum_{i=1}^n (\alpha_{SV,i} \times A_i)$$

この式において、 $\alpha_{SV,i}$ 、 $A_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\alpha_{SV,i}$  室 $i$ の室用途ごとに別表2に掲げる空気調和設備以外の機械換気設備に係る係数(単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$A_i$  室 $i$ の床面積の合計(単位 平方メートル)

$n$  非住宅部分における機械換気対象室の数

(3)  $E_{SL}$ は、次の式により算出する。

$$E_{SL} = \sum_{i=1}^n (\alpha_{SL,i} \times A_i)$$

この式において、 $\alpha_{SL,i}$ 、 $A_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\alpha_{SL,i}$  室 $i$ の室用途ごとに別表2に掲げる照明設備に係る係数(単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$A_i$  室 $i$ の床面積の合計(単位 平方メートル)

$n$  非住宅部分における照明対象室の数

(4)  $E_{SW}$ は、次の式により算出する。

$$E_{sw} = \sum_i^n (\alpha_{sw,i} \times A_i)$$

この式において、 $\alpha_{sw,i}$ 、 $A_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\alpha_{sw,i}$  室 $i$ の室用途及び地域の区分ごとに別表2に掲げる給湯設備に係る係数(単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$A_i$  室 $i$ の床面積の合計(単位 平方メートル)

$n$  非住宅部分における給湯対象室の数

(5)  $E_{sev}$ は、次の式により算出する。

$$E_{sev} = \sum_i^n \left( \frac{L_{sev,i} \times V_{sev,i} \times C_{sev} \times T_{sev,i} \times M_{sev,i}}{860} \times N_{sev,i} \right) \times 9760 \times 10^{-3}$$

この式において、 $L_{sev,i}$ 、 $V_{sev,i}$ 、 $C_{sev}$ 、 $T_{sev,i}$ 、 $M_{sev,i}$ 、 $N_{sev,i}$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$L_{sev,i}$  昇降機系統 $i$ の積載質量(単位 キログラム)

$V_{sev,i}$  昇降機系統 $i$ の定格速度(単位 1分につきメートル)

$C_{sev}$  基準設定速度制御係数(1/40)

$T_{sev,i}$  昇降機系統 $i$ の年間運転時間(単位 時間)

$M_{sev,i}$  昇降機系統 $i$ の輸送能力係数(単位 無次元)

$N_{sev,i}$  昇降機系統 $i$ に属する昇降機の台数(単位 台)

$n$  非住宅部分における昇降機の対象系統数

(6)  $E_M$ は、1の(7)に定める方法により算出する。

### 3 屋内周囲空間の年間熱負荷の算出方法(別紙1の2-1①イ(1)関係)

屋内周囲空間の年間熱負荷は、1年間(室用途ごとに使用時間が設定されている場合には、その時間に限る。以下同じ。)における次のイからニまでに掲げる熱による暖房負荷及び冷房負荷を合計したもの(単位 メガジュール)とする。

イ 外気と屋内周囲空間との温度差

ロ 外壁、窓等からの日射熱

ハ 屋内周囲空間で発生する熱

ニ 取入外気と屋内周囲空間との温湿度の差及び取入外気量に基づく取入外気の熱

## 第2 住宅部分に係る事項

1 外皮平均熱貫流率及び冷房期の平均日射熱取得率の算出方法(別紙1の1-1②イ(1)、2-1②イ関係)

(1) 外皮平均熱貫流率

単位住戸の外皮平均熱貫流率は、イからハまでに定める方法により算出する。

イ 外皮平均熱貫流率は次の式により算出する。

$$U_A = \left( \sum_i^n A_i U_i H_i + \sum_j^m L_j \Psi_j H_j \right) / A$$

この式において、 $U_A$ 、 $A_i$ 、 $U_i$ 、 $H_i$ 、 $n$ 、 $L_j$ 、 $\Psi_j$ 、 $H_j$ 、 $m$ 及び $A$ は、それぞれ次の数値を表す。

$U_A$  外皮平均熱貫流率（単位 1平方メートル1度につきワット）

$A_i$  外皮の第*i*部位の面積（単位 平方メートル）

$U_i$  外皮の第*i*部位の熱貫流率（単位 1平方メートル1度につきワット）

$H_i$  外皮の第*i*部位の隣接空間との温度差による貫流熱量の低減等を勘案した係数（以下イにおいて「温度差係数」という。）

$n$  外皮の部位数

$L_j$  第*j*熱橋（構造部材、下地材、窓枠下材その他断熱構造を貫通する部分であって、断熱性能が周囲の部分より劣るものをいう。以下同じ。）及び土間床等（地盤面をコンクリートその他これに類する材料で覆ったもの又は床裏が外気に通じないものをいう。以下同じ。）の外周部の長さ（単位 メートル）

$\Psi_j$  第*j*熱橋及び土間床等の外周部の線熱貫流率（単位 1メートル1度につきワット）

$H_j$  第*j*熱橋及び土間床等の外周部の温度差係数

$m$  熱橋及び土間床等の外周部の数

$A$  外皮の部位の面積の合計（単位 平方メートル）

ロ  $U_i$ は、当該部位を熱の貫流する方向に構成している材料の種類及び厚さ等を勘案した数値とする。ただし、 $U_i$ については、別表3から別表8までに掲げる仕様の熱貫流率を用いた計算又はこれらの値を求めた計算と同等以上の性能を有することを確認することができる計算により求めた第*i*部位の熱貫流率 $U_i$ を用いることができる。

ハ  $\Psi_j$ は、熱橋及び土間床等の外周部を構成する当該部位を熱の貫流する方向に構成している材料の種類及び厚さ等を勘案して算出した数値とする。ただし、土間床等の外周部の線熱貫流率については、別表3から別表8までに掲げる仕様の線熱貫流率を用いた計算又はこれらの値を求めた計算と同等以上の性能を有することを確認することができる計算により求めた線熱貫流率を用いることができる。

(2) 冷房期の平均日射熱取得率

単位住戸の冷房期の平均日射熱取得率は、次の式により算出する。

$$\eta_{AC} = \left( \sum_i^n A_i \eta_i v_i / A \right) \times 100$$

この式において、 $\eta_{AC}$ 、 $A_i$ 、 $\eta_i$ 、 $v_i$ 、 $n$ 及び $A$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\eta_{AC}$  冷房期の平均日射熱取得率

$A_i$  外皮の第*i*部位の面積（単位 平方メートル）

$\eta_i$  外皮の第*i*部位の日射熱取得率。ただし、 $\eta_i$ については、別表3から別表8までに掲げる仕様

の日射熱取得率を用いた計算又はこれらの値を求めた計算と同等以上の性能を有することを確かめることができる方法により求めた外皮の第*i*部位の日射熱取得率 $\eta_i$ を用いることができる。

$v_i$  外皮の第*i*部位の方位及び地域区分ごとに次の表に掲げる係数（以下「方位係数」という。）

$n$  外皮の数

$A$  外皮の部位の面積の合計（単位 平方メートル）

方位	地域区分							
	1	2	3	4	5	6	7	8
上面	1.0							
北	0.329	0.341	0.335	0.322	0.373	0.341	0.307	0.325
北東	0.430	0.412	0.390	0.426	0.437	0.431	0.415	0.414
東	0.545	0.503	0.468	0.518	0.500	0.512	0.509	0.515
南東	0.560	0.527	0.487	0.508	0.500	0.498	0.490	0.528
南	0.502	0.507	0.476	0.437	0.472	0.434	0.412	0.480
南西	0.526	0.548	0.550	0.481	0.520	0.491	0.479	0.517
西	0.508	0.529	0.553	0.481	0.518	0.504	0.495	0.505
北西	0.411	0.428	0.447	0.401	0.442	0.427	0.406	0.411
下面	0							

## 2 住宅部分の設計一次エネルギー消費量の算出に関する事項（別紙1の1-4-1関係）

住宅部分の設計一次エネルギー消費量の算出に関し、住宅部分の単位住戸の数が一である場合の国土交通大臣が定める方法は、次のとおりとする。

(1)  $E_H$ は、次のイからトまでに定める方法により算出する。

イ  $E_H$ は、単位住戸又は単位住戸の各室の単位時間当たりの暖房設備の一次エネルギー消費量の暖房期における合計とし、次の式により算出する。

$$E_H = \sum_t^n \sum_i^m E_{H,t,i} + \sum_t^n \sum_r^R Q_{UT,H,t,r} \times \alpha_{UT,H,r}$$

この式において、 $E_{H,t,i}$ 、 $Q_{UT,H,t,r}$ 、 $\alpha_{UT,H,r}$ 、 $m$ 、 $n$ 及び $R$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{H,t,i}$  時刻  $t$  における1時間当たりの暖房設備  $i$  の設計一次エネルギー消費量（単位 1時間につきメガジュール）

$Q_{UT,H,t,r}$  室  $r$  の時刻  $t$  における1時間当たりの処理されない暖房負荷（単位 1時間につきメガジュール）

$\alpha_{UT,H,r}$  室  $r$  における処理されない暖房負荷を一次エネルギー消費量に換算する係数であつて地域区分ごとに別表9に掲げる係数

$m$  当該単位住戸における暖房設備の数

$n$  1年間に暖房する時間（単位 時間）

$R$  室の数



- ロ  $E_{H,t,i}$ は、暖房設備の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度、暖房設備により処理される暖房負荷並びに太陽熱利用設備又は排熱利用設備により供給される熱を勘案して算出するものとし、 $E_{H,t,i}$ を時刻  $t$  における 1 時間当たりの暖房設備の設計一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合においては、次の式により算出する。

$$E_{H,t,i} = C_{H,t,i} \times Q_{T,H,t,i}$$

この式において、 $C_{H,t,i}$ 及び $Q_{T,H,t,i}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$C_{H,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの暖房設備  $i$  の設計一次エネルギー消費係数

$Q_{T,H,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの暖房設備  $i$  により処理される暖房負荷 (単位 1 時間につきメガジュール)

- ハ  $C_{H,t,i}$ は、暖房設備の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに暖房設備により処理される暖房負荷を勘案した数値とする。
- ニ  $Q_{T,H,t,i}$ は、太陽熱利用設備又は排熱利用設備により供給される熱等を減じた数値とすることができる。
- ホ 暖房設備により処理されない暖房負荷は、暖房負荷が暖房設備による最大出力以上となる場合は暖房負荷から最大出力を減じた数値とし、暖房負荷が暖房設備による最大出力未満となる場合は 0 とする。
- ヘ 暖房負荷の算出については、次のとおりとする。
- (イ) 暖房負荷の算出に当たっては、次に掲げる事項を勘案すること。
- (i) 暖房設備の運転時間及び温度設定
  - (ii) 居住者の在室時間、在室人数及び発熱量
  - (iii) 局所機械換気及び全般機械換気の運転時間並びに換気量及び換気経路
  - (iv) 家電製品の運転時間及び発熱量
  - (v) 調理の時間及び発熱量
- (ロ) 外気温 (日平均外気温を含む。) については、地域区分ごとの気象情報を用いること。
- (ハ) 暖房負荷の算出に当たっては、次に掲げる熱を勘案すること。
- (i) 室温と外気温又は地温との温度差によって外壁、窓等を貫流する熱
  - (ii) 換気又は漏気によって輸送される熱
  - (iii) 日射の吸収又は夜間放射によって発生する熱
  - (iv) 家電製品、人体その他室内に存する物体から発生する熱
  - (v) 床、壁その他熱容量の大きな部位に蓄えられる熱
  - (vi) 調理により発生する熱のうち、暖房負荷削減に寄与する熱
  - (vii) 太陽熱利用設備又は排熱利用設備により供給される熱
- ト エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表 1 に掲げる値を用いる。
- (2)  $E_c$ は、次のイからへまでに定める方法により算出する。
- イ  $E_c$ は、単位住戸又は単位住戸の各室の単位時間当たりの冷房設備の一次エネルギー消費量の冷房期における合計とし、次の式により算出する。

$$E_c = \sum_t^n \sum_i^m E_{c,t,i}$$

この式において、 $E_{C,t,i}$ 、 $m$  及び  $n$  は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{C,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの冷房設備  $i$  の設計一次エネルギー消費量 (単位 1 時間につきメガジュール)

$m$  当該単位住戸における冷房設備の数

$n$  1 年間に冷房する時間 (単位 時間)

ロ  $E_{C,t,i}$  は、冷房設備の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに冷房設備により処理される冷房負荷を勘案して算出するものとし、 $E_{C,t,i}$  を時刻  $t$  における 1 時間当たりの冷房設備の設計一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合においては、次の式により算出する。

$$E_{C,t,i} = C_{C,t,i} \times Q_{T,C,t,i}$$

この式において、 $C_{C,t,i}$  及び  $Q_{T,C,t,i}$  は、それぞれ次の数値を表す。

$C_{C,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの冷房設備  $i$  の設計一次エネルギー消費係数

$Q_{T,C,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの冷房設備  $i$  により処理される冷房負荷 (単位 1 時間につきメガジュール)

ハ  $C_{C,t,i}$  は、冷房設備の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに冷房設備により処理される冷房負荷を勘案した数値とする。

ニ 冷房設備により処理される冷房負荷は、次に掲げる処理顕熱負荷及び処理潜熱負荷の合計とする。

(イ) 冷房設備による処理顕熱負荷は、冷房顕熱負荷が冷房設備による最大顕熱出力未満となる場合は冷房顕熱負荷とし、冷房顕熱負荷が冷房設備による最大顕熱出力以上となる場合は当該冷房設備による最大顕熱出力とする。

(ロ) 冷房設備による処理潜熱負荷は、冷房潜熱負荷が冷房設備による最大潜熱出力未満となる場合は冷房潜熱負荷とし、冷房潜熱負荷が冷房設備による最大潜熱出力以上となる場合は当該冷房設備による最大潜熱出力とする。

ホ 冷房負荷の算出については、次の通りとする。

(イ) 冷房負荷の算出に当たっては、次に掲げる事項を勘案すること。

(i) 冷房設備の運転時間及び温湿度設定

(ii) 居住者の在室時間、在室人数、発熱量及び発湿量

(iii) 局所機械換気及び全般機械換気の運転時間並びに換気量及び換気経路

(iv) 家電製品の運転時間及び発熱量

(v) 調理の時間並びに発熱量及び発湿量

(ロ) 外気温 (日平均外気温を含む。) については、地域区分ごとの気象情報を用いること。

(ハ) 冷房負荷の算出に当たっては、次の (i) 及び (ii) に掲げる熱をそれぞれ勘案すること。

(i) 顕熱

a 室温と外気温又は地温との温度差によって外壁、窓等を貫流する熱

b 換気 (通風のための措置を含む。 (ii) において同じ。) 又は漏気によって輸送される熱

c 日射の吸収又は夜間放射によって発生する熱

d 家電製品、人体その他室内に存する物体から発生する熱

- e 床、壁その他熱容量の大きな部位に蓄えられる熱
- f 調理により発生する熱のうち、冷房負荷削減に寄与する熱
- (ii) 潜熱
  - a 換気又は漏気によって輸送される水蒸気が保有する熱
  - b 厨房器具、人体その他室内に存する物体から発生する水蒸気が保有する熱
  - c 床、壁その他湿気容量の大きな部位に蓄えられる水蒸気が保有する熱
  - d 調理により発生する水蒸気が保有する熱のうち、冷房負荷削減に寄与する水蒸気が保有する熱

へ エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表 1 に掲げる値を用いる。

(3)  $E_V$ は、次のイからニまでに定める方法により算出する。

イ  $E_V$ は、次の式により算出する。

$$E_V = \sum_t \sum_i^{n_1, m_1} E_{VG,t,i} + \sum_t \sum_i^{n_2, m_2} E_{VL,t,i}$$

この式において、 $E_{VG,t,i}$ 、 $E_{VL,t,i}$ 、 $m_1$ 、 $n_1$ 、 $m_2$ 及び $n_2$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{VG,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの全般機械換気設備  $i$  の設計一次エネルギー消費量 (単位 1 時間につきメガジュール)

$E_{VL,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの局所機械換気設備  $i$  の設計一次エネルギー消費量 (単位 1 時間につきメガジュール)

$m_1$  当該単位住戸における全般機械換気設備の数

$n_1$  全般機械換気設備  $i$  の年間稼働時間 (通年稼働のものにあつては 8760) (単位 時間)

$m_2$  当該単位住戸における局所機械換気設備の数

$n_2$  局所機械換気設備  $i$  の年間稼働時間 (単位 時間)

ロ  $E_{VG,t,i}$  及び  $E_{VL,t,i}$  は、次の式により算出する。

$$E_{VG,t,i} = f_{SFP,i} \times V_{R,i} \times f_{prim} \times 10^{-6}$$

$$E_{VL,t,i} = p_{v,i} \times f_{prim} \times 10^{-6}$$

この式において、 $f_{SFP,i}$ 、 $V_{R,i}$ 、 $f_{prim}$  及び  $p_{v,i}$  は、それぞれ次の数値を表す。

$f_{SFP,i}$  全般機械換気設備  $i$  の比消費電力 (単位 1 時間につき 1 立方メートル当たりのワット)

$V_{R,i}$  全般機械換気設備  $i$  の参照機械換気量 (単位 1 時間につき立方メートル)

$f_{prim}$  別表 1 に掲げる電気の量 1 キロワット時を熱量に換算する係数 (単位 1 キロワット時につきキロジュール)

$p_{v,i}$  局所機械換気設備  $i$  の消費電力 (単位 ワット)

ハ  $f_{SFP,i}$  の算出に当たっては、機械換気設備の種類及び仕様並びに全般機械換気設備の設計風量を勘案するものとする。

ニ  $V_{R,i}$  は、当該単位住戸の床面積の合計に、天井高及び全般機械換気設備に求められる換気回数を乗じた値に余裕率を勘案し、機械換気設備の有効換気量率で除して求められる換気量とする。

(4)  $E_L$  は、次のイからニまでに定める方法により算出する。

イ  $E_L$  は、次の式により算出する。

$$E_L = \sum_t^n \sum_i^m E_{L,t,i}$$

この式において、 $E_{L,t,i}$ 、 $m$  及び  $n$  は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{L,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの照明区画（照明器具の種類、照明設備の制御方法及び配置、照度の設定、室等の形状並びに内装仕上げが同一の部分を用いる。以下同じ。） $i$  に設置される照明設備の設計一次エネルギー消費量（単位 1 時間につきメガジュール）

$m$  当該単位住戸における照明区画の数

$n$  照明区画  $i$  における年間点灯時間（単位 時間）

ロ  $E_{L,t,i}$  は、以下の式により算出する。

$$E_{L,t,i} = P_i \times C_i \times f_{prim} \times 10^{-6} \times r_{i,d,t}$$

この式において、 $P_i$ 、 $C_i$ 、 $f_{prim}$  及び  $r_{i,d,t}$  は、それぞれ次の数値を表す。

$P_i$  照明区画  $i$  に設置される照明設備の消費電力の合計値（単位 ワット）

$C_i$  照明区画  $i$  に設置される照明設備の消費電力の補正值

$f_{prim}$  別表 1 に掲げる電気の量 1 キロワット時を熱量に換算する係数（単位 1 キロワット時につきキロジュール）

$r_{i,d,t}$  時刻  $t$  における照明区画  $i$  に設置される照明設備の使用時間率

ハ  $P_i$  の算出に当たっては、照明設備の種類及び仕様並びに照明区画  $i$  の床面積を勘案するものとする。

ニ  $C_i$  の算出に当たっては、照明設備の設置状況及び用途、調光、人感センサー並びに多灯分散照明方式の採用の有無を勘案するものとする。

(5)  $E_W$  は、次のイからホまでに定める方法により算出する。

イ  $E_W$  は、次の式により算出する。

$$E_W = \sum_d^D E_{W,d}$$

この式において、 $E_{W,d}$  及び  $D$  は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{W,d}$  日付  $d$  における 1 日当たりの給湯設備の設計一次エネルギー消費量（単位 1 日につきメガジュール）

$D$  給湯設備の年間稼働日数（単位 日）

ロ  $E_{W,d}$  は、給湯設備の種類及び仕様、外気温湿度、給水温度並びに給湯負荷を勘案するものとし、日付  $d$  における 1 日当たりの給湯設備の設計一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合には、以下の式により算出する。

$$E_{W,d} = C_{w,d} \times L_{w,d}$$

この式において、 $C_{w,d}$  及び  $L_{w,d}$  は、それぞれ次の数値を表す。

$C_{w,d}$  日付  $d$  における 1 日当たりの給湯設備の設計一次エネルギー消費係数

$L_{w,d}$  日付  $d$  における 1 日当たりの給湯負荷（単位 1 日につきメガジュール）

ハ  $C_{w,d}$  は、給湯設備の種類及び仕様、外気温湿度、給水温度並びに給湯負荷を勘案した数値とする。

ニ  $L_{w,d}$  は、当該単位住戸の床面積、給湯対象室、外気温湿度、給水温度、節湯器具の仕様及び給湯配管の仕様を勘案するものとし、さらに太陽熱利用設備を利用する場合には太陽熱利用設

備の種類、仕様、直達日射量及び天空放射量を勘案して算出する。

ホ エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表1掲げる値を用いる。

(6)  $E_S$ は、次のイ及びロに定める方法により算出する。

イ  $E_S$ は、次の式により算出する。

$$E_S = \sum_t^n \sum_i^m E_{E,s,t,i} \times f_{prim} \times 10^{-3}$$

この式において、 $E_{E,s,t,i}$ 、 $m$ 、 $n$ 及び $f_{prim}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{E,s,t,i}$  時刻  $t$  における1時間当たりのエネルギー利用効率化設備  $i$  による消費電力量の削減量  
(単位 1時間につきキロワット時)

$m$  当該単位住戸におけるエネルギー利用効率化設備の数

$n$  エネルギー利用効率化設備  $i$  の年間稼働時間 (単位 時間)

$f_{prim}$  別表1に掲げる電気の量1キロワット時を熱量に換算する係数 (単位 1キロワット時につきキロジュール)

ロ  $E_{E,s,t,i}$ の算出に当たっては、気象条件並びに設備の性能及び設置状況を勘案するものとする。

(7)  $E_M$ は、次の式により算出する。

$$E_M = \alpha_M \times A_{total} + \beta_M$$

この式において、 $\alpha_M$ 、 $A_{total}$ 及び $\beta_M$ は、それぞれ次の数値を表す。

$\alpha_M$  床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数 (単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$\beta_M$  床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数 (単位 1年につきメガジュール)

$A_{total}$  当該単位住戸の床面積の合計 (単位 平方メートル)

係数	床面積の合計の区分				
	(い)	(ろ)	(は)	(に)	(ほ)
	床面積の合計が30平方メートル未満	床面積の合計が30平方メートル以上かつ60平方メートル未満	床面積の合計が60平方メートル以上かつ90平方メートル未満	床面積の合計が90平方メートル以上かつ120平方メートル未満	床面積の合計が120平方メートル以上
$\alpha_M$	0	87.63	166.71	47.64	0
$\beta_M$	12181.13	9552.23	4807.43	15523.73	21240.53

3 住宅部分の基準一次エネルギー消費量及び誘導基準一次エネルギー消費量の算出に関する事項 (別紙1の1-5、2-3関係)

(1) 住宅部分の基準一次エネルギー消費量及び誘導基準一次エネルギー消費量の算出に関し、住宅部分の単位住戸の数が一である場合の国土交通大臣が定める方法は、次のとおりとする。

イ  $E_{SH}$ は、次の(イ)から(ト)までに定める方法により算出する。

(イ)  $E_{SH}$ は、単位住戸又は単位住戸の各室の単位時間当たりの暖房設備の一次エネルギー消費量

の暖房期における合計とし、次の式により算出する。

$$E_{SH} = \sum_t^n \sum_i^m E_{SH,t,i} + \sum_t^n \sum_r^R Q_{UT,SH,t,r} \times \alpha_{UT,SH,r}$$

この式において、 $E_{SH,t,i}$ 、 $Q_{UT,SH,t,r}$ 、 $\alpha_{UT,SH,r}$ 、 $m$ 、 $n$  及び  $R$  は、それぞれ次の数値を表す。

$E_{SH,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの標準的な暖房設備  $i$  の基準一次エネルギー消費量  
(単位 1 時間につきメガジュール)

$Q_{UT,SH,t,r}$  室  $r$  の時刻  $t$  における 1 時間当たりの処理されない暖房負荷 (単位 1 時間につきメガジュール)

$\alpha_{UT,SH,r}$  室  $r$  における処理されない暖房負荷を一次エネルギー消費量に換算する係数として地域区分ごとに別表 9 に掲げる係数

$m$  単位住戸における暖房設備の数

$n$  1 年間に暖房する時間 (単位 時間)

$R$  室の数

- (ロ)  $E_{SH,t,i}$  は、標準的な暖房設備  $i$  の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度、暖房設備により処理される暖房負荷を勘案して算出するものとし、 $E_{SH,t,i}$  を時刻  $t$  における 1 時間当たりの標準的な暖房設備  $i$  の基準一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合においては、次の式により算出する。

$$E_{SH,t,i} = C_{SH,t,i} \times Q_{T,SH,t,i}$$

この式において、 $C_{SH,t,i}$  及び  $Q_{T,SH,t,i}$  は、それぞれ次の数値を表す。

$C_{SH,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの標準的な暖房設備  $i$  の基準一次エネルギー消費係数

$Q_{T,SH,t,i}$  時刻  $t$  における 1 時間当たりの標準的な暖房設備  $i$  により処理される暖房負荷 (単位 1 時間につきメガジュール)

- (ハ)  $C_{SH,t,i}$  は、標準的な暖房設備の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに標準的な暖房設備  $i$  により処理される暖房負荷を勘案した数値とする。
- (ニ) 暖房設備により処理されない暖房負荷は、暖房負荷が暖房設備による最大出力以上となる場合は暖房負荷から最大出力を減じた数値とし、暖房負荷が暖房設備による最大出力未満となる場合は 0 とする。
- (ホ) 暖房負荷の算出に当たっては、次のとおりとする。
- (イ) 暖房負荷の算出においては、地域区分に応じ、外皮平均熱貫流率及び暖房期の日射熱取得率に次の表に掲げる数値を用いることとする。

地域区分	住宅の種別	1	2	3	4	5	6	7	8
外皮平均熱貫流率 (単位 1 平方メートル 1 度につきワット)	一戸建て の住宅	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	2.14
	共同住宅等 の住戸	0.41	0.41	0.44	0.69	0.75	0.75	0.75	1.67
暖房期の平均日射熱 取得率	一戸建て の住宅	2.5	2.3	2.7	3.7	4.5	4.3	4.6	-
	共同住宅等	1.5	1.3	1.5	1.8	2.1	2.0	2.1	-

	の住戸								
--	-----	--	--	--	--	--	--	--	--

(※表中の共同住宅等とは、共同住宅、長屋その他の一戸建ての住宅以外の住宅をいう。以下同じ。)

- (ii) 暖房負荷の算出に当たっては、次に掲げる事項を勘案すること。
- ① 暖房設備の運転時間及び温度設定
  - ② 居住者の在室時間、在室人数及び発熱量
  - ③ 局所機械換気及び全般機械換気の運転時間並びに換気量及び換気経路
  - ④ 家電製品の運転時間及び発熱量
  - ⑤ 調理の時間及び発熱量
- (iii) 外気温（日平均外気温を含む。）については、地域区分ごとの気象情報を用いること。
- (iv) 暖房負荷の算出に当たっては、次に掲げる熱を勘案すること。
- ① 室温と外気温又は地温との温度差によって外壁、窓等を貫流する熱
  - ② 換気又は漏気によって輸送される熱
  - ③ 日射の吸収又は夜間放射によって発生する熱
  - ④ 家電製品、人体その他室内に存する物体から発生する熱
  - ⑤ 床、壁その他熱容量の大きな部位に蓄えられる熱
  - ⑥ 調理により発生する熱のうち、暖房負荷削減に寄与する熱
- (へ) エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表1に掲げる値を用いる。
- ロ  $E_{SC}$ は、次の(イ)から(へ)までに定める方法により算出する。
- (イ)  $E_{SC}$ は、単位住戸又は単位住戸の各室の単位時間当たりの冷房設備の一次エネルギー消費量の冷房期における合計とし、次の式により算出する。
- $$E_{SC} = \sum_t^n \sum_i^m E_{SC,t,i}$$
- この式において、 $E_{SC,t,i}$ 、 $m$  及び  $n$  は、それぞれ次の数値を表す。
- $E_{SC,t,i}$  時刻  $t$  における1時間当たりの標準的な冷房設備  $i$  の基準一次エネルギー消費量  
(単位 1時間につきメガジュール)
- $m$  単位住戸における冷房設備の数
- $n$  1年間に冷房する時間(単位 時間)
- (ロ)  $E_{SC,t,i}$ は、標準的な冷房設備の種類及び仕様、単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに標準的な冷房設備により処理される冷房負荷を勘案して算出するものとし、 $E_{SC,t,i}$ を時刻  $t$  における1時間当たりの冷房設備の基準一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合においては、次の式により算出する。
- $$E_{SC,t,i} = C_{SC,t,i} \times Q_{T,SC,t,i}$$
- この式において、 $C_{SC,t,i}$ 及び $Q_{T,SC,t,i}$ は、それぞれ次の数値を表す。
- $C_{SC,t,i}$  時刻  $t$  における1時間当たりの標準的な冷房設備  $i$  の基準一次エネルギー消費係数
- $Q_{T,SC,t,i}$  時刻  $t$  における1時間当たりの標準的な冷房設備  $i$  により処理される冷房負荷(単位 1時間につきメガジュール)
- (ハ)  $C_{SC,t,i}$ は、標準的な冷房設備の種類及び仕様、当該単位住戸の床面積、外気の温湿度並びに

標準的な冷房設備により処理される冷房負荷を勘案した数値とする。

(ニ) 冷房設備により処理される冷房負荷は、次に掲げる処理顕熱負荷及び処理潜熱負荷の合計とする。

(イ) 冷房設備による処理顕熱負荷は、冷房顕熱負荷が冷房設備による最大顕熱出力未満となる場合は冷房顕熱負荷とし、冷房顕熱負荷が冷房設備による最大顕熱出力以上となる場合は当該冷房設備による最大顕熱出力とする。

(イイ) 冷房設備による処理潜熱負荷は、冷房潜熱負荷が冷房設備による最大潜熱出力未満となる場合は冷房潜熱負荷とし、冷房潜熱負荷が冷房設備による最大潜熱出力以上となる場合は当該冷房設備による最大潜熱出力とする。

(ホ) 冷房負荷の算出に当たっては、次のとおりとする。

(イ) 冷房負荷の算出に当たっては、地域区分に応じ、外皮平均熱貫流率及び冷房期の日射熱取得率に次の表に掲げる数値を用いることとする。

地域区分	住宅の種類別	1	2	3	4	5	6	7	8
外皮平均熱貫流率 (単位 1平方メートルにつきワット)	一戸建ての住宅	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	2.14
	共同住宅等の住戸	0.41	0.41	0.44	0.69	0.75	0.75	0.75	1.67
冷房期の平均日射熱取得率	一戸建ての住宅	1.9	1.9	2.0	2.7	3.0	2.8	2.7	3.2
	共同住宅等の住戸	1.1	1.1	1.1	1.4	1.5	1.4	1.3	2.4

(イイ) 冷房負荷の算出に当たっては、次に掲げる事項を勘案すること。

- ② 冷房設備の運転時間及び温湿度設定
- ② 居住者の在室時間、在室人数、発熱量及び発湿量
- ③ 局所機械換気及び全般機械換気の運転時間並びに換気量及び換気経路
- ④ 家電製品の運転時間及び発熱量
- ⑤ 調理の時間並びに発熱量及び発湿量

(iii) 外気温（日平均外気温を含む。）については、地域区分の気象情報を用いること。

(iv) 冷房負荷の算出に当たっては、次の①及び②に掲げる熱をそれぞれ勘案すること。

- ① 顕熱
  - a 室温と外気温又は地温との温度差によって外壁、窓等を貫流する熱
  - b 換気（通風のための措置を含む。（ii）において同じ。）又は漏気によって輸送される熱
  - c 日射の吸収又は夜間放射によって発生する熱
  - d 家電製品、人体その他室内に存する物体から発生する熱
  - e 床、壁その他熱容量の大きな部位に蓄えられる熱
  - f 調理により発生する熱のうち、冷房負荷削減に寄与する熱



② 潜熱

- a 換気又は漏気によって輸送される水蒸気が保有する熱
- b 厨房器具、人体その他室内に存する物体から発生する水蒸気が保有する熱
- c 床、壁その他湿気容量の大きな部位に蓄えられる水蒸気が保有する熱
- d 調理により発生する水蒸気が保有する熱のうち、冷房負荷削減に寄与する水蒸気が保有する熱

(へ) エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表1に掲げる値を用いる。

ハ  $E_{SV}$ は、次の式により算出する。

$$E_{SV} = a_{SV} \times A_{total} + \beta_{SV}$$

この式において、 $a_{SV}$ 、 $A_{total}$ 及び $\beta_{SV}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$a_{SV}$  床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数 (単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$\beta_{SV}$  床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数 (単位 1年につきメガジュール)

$A_{total}$  当該単位住戸の床面積の合計 (単位 平方メートル)

係数	床面積の合計の区分		
	(い)	(ろ)	(は)
	床面積の合計が 30平方メートル未満	床面積の合計が 30平方メートル以上 かつ120平方メートル 未満	床面積の合計が 120平方メートル以上
$a_{SV}$	33	38	33
$\beta_{SV}$	129	-21	579

ニ  $E_{SL}$ は、次の式により算出する。

$$E_{SL} = 31 \times A_{total} + 169 \times A_{MR} + 39 \times A_{OR}$$

この式において、 $A_{total}$ 、 $A_{MR}$ 及び $A_{OR}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$A_{total}$  当該単位住戸の床面積の合計 (単位 平方メートル)

$A_{MR}$  当該単位住戸の主たる居室の床面積の合計 (単位 平方メートル)

$A_{OR}$  当該単位住戸のその他の居室の床面積の合計 (単位 平方メートル)

ホ  $E_{SW}$ は、次の式により算出する。ただし、浴室、その他浴槽若しくは身体の清浄を目的とした設備を有する室 (以下「浴室等」という。)、台所及び洗面所が無い場合は0とする。

$$E_{SW} = a_{SW} \times A_{total} + \beta_{SW}$$

この式において、 $a_{SW}$ 、 $A_{total}$ 及び $\beta_{SW}$ は、それぞれ次の数値を表す。

$a_{SW}$  床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数 (単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$\beta_{SW}$  床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数 (単位 1年につきメガジュール)

$A_{total}$  当該単位住戸の床面積の合計 (単位 平方メートル)

地域区分	給湯対象室	係数	床面積の合計の区分				
			(い)	(ろ)	(は)	(に)	(ほ)
			床面積の合計が 30 平方メートル未満	床面積の合計が 30 平方メートル以上かつ 60 平方メートル未満	床面積の合計が 60 平方メートル以上かつ 90 平方メートル未満	床面積の合計が 90 平方メートル以上かつ 120 平方メートル未満	床面積の合計が 120 平方メートル以上
1	浴室等が有る場合	$a_{SW}$	—	234	307	109	—
		$\beta_{SW}$	11946	4926	546	18366	31446
	浴室等が無く、台所又は洗面が有る場合	$a_{SW}$	—	32	78	15	—
		$\beta_{SW}$	4835	3875	1115	6785	8585
2	浴室等が有る場合	$a_{SW}$	—	228	300	107	—
		$\beta_{SW}$	11696	4856	536	17906	30746
	浴室等が無く、台所又は洗面が有る場合	$a_{SW}$	—	32	77	15	—
		$\beta_{SW}$	4742	3782	1082	6662	8462
3	浴室等が有る場合	$a_{SW}$	—	212	280	100	—
		$\beta_{SW}$	10892	4532	452	16652	28652
	浴室等が無く、台所又は洗面が有る場合	$a_{SW}$	—	30	72	14	—
		$\beta_{SW}$	4442	3542	1022	6242	7922
4	浴室等が有る場合	$a_{SW}$	—	205	272	97	—
		$\beta_{SW}$	10575	4425	405	16155	27795
	浴室等が無く、台所又は洗面が有る場合	$a_{SW}$	—	29	70	13	—
		$\beta_{SW}$	4321	3451	991	6121	7681
5	浴室等が有る場合	$a_{SW}$	—	200	276	103	—
		$\beta_{SW}$	10440	4440	—120	15450	27810
	浴室等が無く、台所又は洗面が有る場合	$a_{SW}$	—	29	71	14	—
		$\beta_{SW}$	4165	3295	775	5905	7585

6	浴室等がある場合	$a_{SW}$	—	181	249	93	—
		$\beta_{SW}$	9401	3971	—109	13931	25091
	浴室等がなく、台所又は洗面がある場合	$a_{SW}$	—	26	64	12	—
		$\beta_{SW}$	3755	2975	695	5375	6815
7	浴室等がある場合	$a_{SW}$	—	165	227	85	—
		$\beta_{SW}$	8499	3549	—171	12609	22809
	浴室等がなく、台所又は洗面がある場合	$a_{SW}$	—	23	57	11	—
		$\beta_{SW}$	3402	2712	672	4812	6132
8	浴室等がある場合	$a_{SW}$	—	130	178	67	—
		$\beta_{SW}$	6672	2772	—108	9882	17922
	浴室等がなく、台所又は洗面がある場合	$a_{SW}$	—	18	45	9	—
		$\beta_{SW}$	2679	2139	519	3759	4839

へ  $E_M$ は、2(7)に定める方法による。

(2) 住宅部分の基準一次エネルギー消費量及び誘導基準一次エネルギー消費量の算出に関し、住宅部分の単位住戸の数が一でない場合の国土交通大臣が定める方法は、次のとおりとする。

イ  $E_{sac}$ は、次の式により算出する。

$$E_{sac} = \sum_i^n (a_{sac,i} \times A_i)$$

この式において、 $a_{sac,i}$ 、 $A_i$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$a_{sac,i}$  空気調和対象室 $i$ の室用途及び地域区分ごとに次の表に掲げる係数(次の表に該当する用途がない場合にあつては、別表2に掲げる係数)(単位 1平方メートル1年につきメガジュール)

$A_i$  空気調和対象室 $i$ の床面積の合計(単位 平方メートル)

$n$  当該共用部分における空気調和対象室の数

室用途	地域区分							
	1	2	3	4	5	6	7	8
ロビー	1198	1215	1064	1093	1142	1166	1114	1223
管理人室	431	428	366	386	394	440	418	520
集会室	576	549	452	453	451	478	472	538
屋内廊下	937	973	705	745	801	829	858	799

ロ  $E_{sv}$ は、次の式により算出する。

$$E_{sv} = \sum_i^n (a_{sv,i} \times A_{t,i})$$

この式において、 $a_{sv,i}$ 、 $A_{t,i}$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$a_{sv,i}$  空気調和対象室を除く機械換気対象室*i*の室用途ごとに次の表に掲げる係数（次の表に該当する用途がない場合にあつては、別表2に掲げる係数）（単位 1平方メートル1年につきメガジュール）

$A_{t,i}$  空気調和対象室を除く機械換気対象室*i*の床面積の合計（単位 平方メートル）

$n$  当該共用部分における次の表の用途の室のうち空気調和対象室以外の室数

室用途	$a_{sv,i}$
機械室	712
電気室	1425
屋内駐車場	997
廃棄物保管場所等	2137

ハ  $E_{sl}$ は、次の式により算出する。

$$E_{sl} = \sum_i^n (a_{sl,i} \times A_{t,i})$$

この式において、 $a_{sl,i}$ 、 $A_{t,i}$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$a_{sl,i}$  照明対象室*i*の室用途ごとに次の表に掲げる係数（次の表に該当する用途がない場合にあつては、別表2に掲げる係数）（単位 1平方メートル1年につきメガジュール）

$A_{t,i}$  照明対象室*i*の床面積の合計（単位 平方メートル）

$n$  当該共用部分における照明対象室の数

室用途	$a_{sl,i}$
ロビー	1026
管理人室	369
集会室	113
屋内廊下	513
屋外廊下	256
機械室	10
電気室	10
屋内駐車場	308
廃棄物保管場所等	308

ニ  $E_{sw}$ は、次の式により算出する。

$$E_{sw} = \sum_i^n (a_{sw,i} \times A_{t,i})$$

この式において、 $a_{sw,i}$ 、 $A_{t,i}$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$a_{sw,i}$  給湯対象室  $i$  の室用途及び地域区分ごとに次の表に掲げる係数（次の表に該当する用途がない場合にあつては、別表 2 に掲げる係数）（単位 1 平方メートル 1 年につきメガジュール）

$A_{t,i}$  給湯対象室  $i$  の床面積の合計（単位 平方メートル）

$n$  当該共用部分における給湯対象室の数

室用途	地域区分							
	1	2	3	4	5	6	7	8
管理人室	25	24	23	22	21	19	17	14
集会室	97	95	89	87	83	75	69	56

ホ  $E_{sev}$  は、次の式により算出する。

$$E_{sev} = \sum_i^n \left( \frac{L_{ev,i} \times V_{ev,i} \times F_{st} \times T_{ev,i} \times M_{ev,i}}{860} \times N_{ev,i} \right) \times 9760 \times 10^{-3}$$

この式において、 $L_{ev,i}$ 、 $V_{ev,i}$ 、 $F_{st}$ 、 $T_{ev,i}$ 、 $M_{ev,i}$ 、 $N_{ev,i}$ 及び $n$ は、それぞれ次の数値を表す。

$L_{ev,i}$  昇降機系統  $i$  に属する昇降機の積載質量（単位 キログラム）

$V_{ev,i}$  昇降機系統  $i$  に属する昇降機の定格速度（単位 1 分につきメートル）

$F_{st}$  基準設定速度制御係数（1/40）

$T_{ev,i}$  : 昇降機系統  $i$  の昇降機年間運転時間（単位 時間）

$M_{ev,i}$  : 昇降機系統  $i$  の輸送能力係数（単位 無次元）

$N_{ev,i}$  : 昇降機系統  $i$  に属する昇降機の台数（単位 台）

$n$  : 当該共用部分における昇降機の対象系統数

### 第 3 地域の気候及び風土に応じた住宅の取扱い

建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令案の概要 3-1 の場合における 3 (1) イ (ホ) の暖房負荷及び同ロ (ホ) の冷房負荷の算出については、当該単位住戸の外皮平均熱貫流率、冷房期の平均日射熱取得率及び暖房期の平均日射熱取得率を用いることができるものとする。

別表 1

重油	1 リットルにつき 41,000 キロジュール
灯油	1 リットルにつき 37,000 キロジュール
液化石油ガス	1 キログラムにつき 50,000 キロジュール
都市ガス	1 立方メートルにつき 45,000 キロジュール
他人から供給された熱 (蒸気、温水、冷水)	1 キロジュールにつき 1.36 キロジュール (他人から供給された熱を発生するために使用された燃料の発熱量を算出する上で適切と認められるものを求めることができる場合においては、当該係数を用いることができる。)
電気	1 キロワット時につき 9,760 キロジュール (夜間買電 (電気事業法 (昭和39年法律第170号) 第2条第1項第2号に規定する一般電気事業者維持し、及び運用する電線路を介して22時から翌日 8 時までの間に電気の供給を受けることをいう。) を行う場合においては、昼間買電 (同号に規定する一般電気事業者が維持し、及び運用する電線路を介して 8 時から22時までの間に電気の供給を受けることをいう。) の間の消費電力量については 1 キロワット時につき 9,970 キロジュールと、夜間買電の消費電力量については 1 キロワット時につき 9,280 キロジュールとすることができる。)

別表 2

室用途	設備別基準一次エネルギー消費量に関する係数 (単位: 1平方メートル1年につきメガジュール)																			
	空調和設備								空調和設備 以外の	照明 設備	給湯設備								その他 設備等	
	地域区分										地域区分									
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8				
事務所等	事務室	1060	1063	995	1018	1084	1173	1180	1478	0	498	20	20	19	18	17	16	14	12	498
	電子計算機器事務室	1063	1068	1146	1173	1284	1386	1418	1787	0	498	20	20	19	18	17	16	14	12	1245
	会議室	1303	1287	1109	1126	1167	1246	1241	1567	0	231	51	50	47	45	43	39	36	29	42
	喫茶室	1303	1287	1109	1126	1167	1246	1241	1567	0	254	1712	1678	1572	1531	1454	1322	1209	978	42
	社員食堂	465	458	412	418	432	484	469	626	0	141	2568	2517	2358	2297	2180	1983	1813	1467	0
	中央監視室	2444	2458	2975	3097	3349	3549	3752	4634	0	1171	46	45	42	41	39	36	33	26	2565
	ロビー	770	766	702	714	727	790	773	958	0	547	6	6	6	5	5	5	4	3	0
	廊下	770	766	702	714	727	790	773	958	0	245	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便所	770	766	702	714	727	790	773	958	413	367	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫煙室	770	766	702	714	727	790	773	958	826	202	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	更衣室又は倉庫	925	928	873	894	935	1016	1018	1283	138	202	995	975	914	890	845	768	702	569	0
	厨房	0	0	0	0	0	0	0	0	3514	322	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械室	0	0	0	0	0	0	0	0	769	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電気室	0	0	0	0	0	0	0	0	1539	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯沸室等	0	0	0	0	0	0	0	0	88	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食品庫等	0	0	0	0	0	0	0	0	176	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
印刷室等	0	0	0	0	0	0	0	0	176	106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
屋内駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	1366	123	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
薬物保管場所等	0	0	0	0	0	0	0	0	527	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ホテル等	客室	1752	1568	1156	1124	1137	1144	1092	1171	0	308	936	917	859	837	795	723	661	535	131
	客室内の浴室等	1752	1568	1156	1124	1137	1144	1092	1171	385	342	936	917	859	837	795	723	661	535	131
	終日利用されるフロント	4328	4235	4626	4723	5295	5458	5587	6757	0	1710	0	0	0	0	0	0	0	0	0

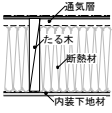
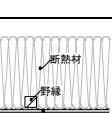
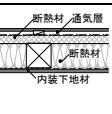
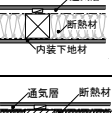
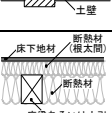
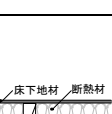
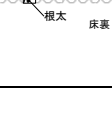

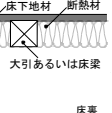

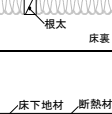
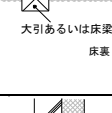
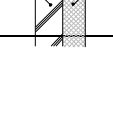



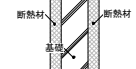
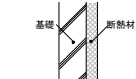
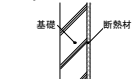
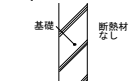
業を営む 店舗等	荷さばき場	1042	984	781	784	777	819	819	920	0	125	31	30	28	28	26	24	22	18	142
	ロビー	1465	1419	1297	1315	1369	1409	1420	1601	0	1246	31	30	28	28	26	24	22	18	0
	便所	1465	1419	1297	1315	1369	1409	1420	1601	625	556	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫煙室	1465	1419	1297	1315	1369	1409	1420	1601	1250	306	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	更衣室又は倉庫	1877	1834	1818	1864	2018	2120	2196	2674	208	306	502	492	461	449	427	388	355	287	0
	厨房	0	0	0	0	0	0	0	0	5973	548	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械室	0	0	0	0	0	0	0	0	769	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電気室	0	0	0	0	0	0	0	0	1539	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯沸室等	0	0	0	0	0	0	0	0	149	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食品庫等	0	0	0	0	0	0	0	0	299	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷室等	0	0	0	0	0	0	0	0	299	181	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	屋内駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	2147	193	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	廃棄物保管場所等	0	0	0	0	0	0	0	0	896	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学校等	小中学校の教室	562	563	467	457	602	656	635	841	0	176	218	213	200	195	185	168	154	124	8
	高等学校の教室	562	563	467	457	602	656	635	841	0	176	83	81	76	74	70	64	58	47	8
	小中学校又は高等学校の食堂	291	290	231	226	262	286	271	319	0	63	1392	1365	1279	1245	1182	1075	983	796	0
	大学の教室	603	596	498	510	553	594	591	831	0	183	69	67	63	61	58	53	49	39	32
	大学の食堂	2582	2553	2410	2459	2664	2735	2754	3405	0	333	3825	3750	3513	3421	3248	2954	2700	2186	0
	職員室	1390	1325	933	960	968	1052	1022	1155	0	382	61	59	56	54	51	47	43	35	223
	研究室	995	976	945	967	1021	1109	1109	1456	0	557	49	48	45	44	42	38	35	28	1026
	電子計算機演習室	872	876	844	882	932	1041	1081	1426	0	312	102	100	93	91	86	78	72	58	1129
	実験室	872	876	844	882	932	1041	1081	1426	0	514	102	100	93	91	86	78	72	58	1129
	実習室	872	876	844	882	932	1041	1081	1426	0	386	102	100	93	91	86	78	72	58	1129
	講堂又は体育館	1081	1076	909	937	973	1052	1028	1293	0	103	142	140	131	127	121	110	100	81	0
	宿直室	1552	1415	1058	1042	1061	1075	1058	1133	385	311	936	917	859	837	795	723	661	535	131
	事務室	795	787	617	627	638	705	658	832	0	383	41	40	37	36	35	31	29	23	228
	ロビー	1663	1661	1796	1858	2061	2187	2262	2813	0	282	41	40	37	36	35	31	29	23	0
	廊下	633	627	560	574	575	628	606	757	0	188	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便所	633	627	560	574	575	628	606	757	318	282	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫煙室	633	627	560	574	575	628	606	757	635	155	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	更衣室又は倉庫	993	998	964	980	1049	1130	1133	1406	106	155	332	325	305	297	282	256	234	190	0
	厨房	0	0	0	0	0	0	0	0	2108	193	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械室	0	0	0	0	0	0	0	0	769	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電気室	0	0	0	0	0	0	0	0	1539	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯沸室等	0	0	0	0	0	0	0	0	53	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食品庫等	0	0	0	0	0	0	0	0	105	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
印刷室等	0	0	0	0	0	0	0	0	105	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
屋内駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	1171	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
廃棄物保管場所等	0	0	0	0	0	0	0	0	316	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
飲食店等	レストランの客室	1834	1823	1741	1817	1918	1965	1933	2358	0	926	3889	3813	3572	3479	3302	3003	2746	2222	1008
	軽食店の客室	1706	1721	1460	1518	1618	1682	1705	1920	0	556	1296	1271	1191	1160	1101	1001	915	741	0
	喫茶店の客室	1749	1771	1567	1637	1755	1808	1784	2064	0	940	2593	2542	2381	2319	2201	2002	1830	1481	317
	バー	433	426	372	375	380	404	395	423	0	116	2074	2033	1905	1855	1761	1602	1464	1185	0
	フロント	845	856	716	732	732	752	727	793	0	509	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務室	1071	1094	903	943	981	1008	974	1080	0	755	31	30	28	28	26	24	22	18	463
	ロビー	845	856	716	732	732	752	727	793	0	556	31	30	28	28	26	24	22	18	0
	廊下	845	856	716	732	732	752	727	793	0	278	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便所	845	856	716	732	732	752	727	793	625	556	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫煙室	845	856	716	732	732	752	727	793	1250	306	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	更衣室又は倉庫	1083	1120	881	915	957	999	998	1028	208	306	502	492	461	449	427	388	355	287	0
	厨房	0	0	0	0	0	0	0	0	5973	548	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械室	0	0	0	0	0	0	0	0	769	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電気室	0	0	0	0	0	0	0	0	1539	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯沸室等	0	0	0	0	0	0	0	0	149	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食品庫等	0	0	0	0	0	0	0	0	299	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
印刷室等	0	0	0	0	0	0	0	0	299	181	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
屋内駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	1952	176	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
廃棄物保管場所等	0	0	0	0	0	0	0	0	896	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アスレチック場の運動室	アスレチック場の運動室	1800	1752	1884	1952	2129	2272	2367	2961	175	635	1267	1243	1164	1134	1076	979	895	724	288
	アスレチック場のロビー	1703	1630	1779	1812	1953	2060	2095	2533	0	425	26	25	24	23	22	20	18	15	0



集会所等	アスレチック場の便所	1703	1630	1779	1812	1953	2060	2095	2533	526	467	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アスレチック場の喫煙室	1703	1630	1779	1812	1953	2060	2095	2533	1052	257	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	公式競技用スケート場	2688	2621	2753	2841	3069	3211	3375	4242	183	1780	478	468	439	427	405	369	337	273	0
	一般競技用スケート場	2688	2621	2753	2841	3069	3211	3375	4242	183	890	478	468	439	427	405	369	337	273	0
	レクリエーション用スケート場	2688	2621	2753	2841	3069	3211	3375	4242	183	358	478	468	439	427	405	369	337	273	0
	公式競技用体育館	2688	2621	2753	2841	3069	3211	3375	4242	183	1187	478	468	439	427	405	369	337	273	0
	一般競技用体育館	2688	2621	2753	2841	3069	3211	3375	4242	183	593	478	468	439	427	405	369	337	273	0
	レクリエーション用体育館	2688	2621	2753	2841	3069	3211	3375	4242	183	236	478	468	439	427	405	369	337	273	0
	競技場の客席	2231	2164	2163	2223	2363	2505	2614	3281	0	93	117	115	108	105	99	90	83	67	0
	競技場のロビー	1758	1721	1872	1905	2043	2149	2187	2637	0	443	29	29	27	26	25	23	21	17	0
	競技場の便所	1758	1721	1872	1905	2043	2149	2187	2637	549	488	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	競技場の喫煙室	1758	1721	1872	1905	2043	2149	2187	2637	1097	268	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	浴場施設の浴室	1964	1898	1898	1935	2030	2119	2187	2696	224	688	481	4766	4464	4348	4128	3754	3432	2778	0
	浴場施設の休憩室	1964	1898	1898	1935	2030	2119	2187	2696	224	399	62	60	57	55	52	48	43	35	0
	浴場施設の脱衣所	1964	1898	1898	1935	2030	2119	2187	2696	224	359	481	4766	4464	4348	4128	3754	3432	2778	0
	浴場施設のロビー	1964	1898	1898	1935	2030	2119	2187	2696	0	544	62	60	57	55	52	48	43	35	0
	浴場施設の便所	3623	3580	3862	3924	4285	4502	4660	5662	673	598	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	浴場施設の喫煙室	3623	3580	3862	3924	4285	4502	4660	5662	1347	329	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	映画館の客席	6690	6474	6441	6605	7145	7398	7716	9685	0	128	308	302	283	275	261	238	217	176	0
	映画館のロビー	3644	3634	4072	4118	4538	4739	4852	5802	0	641	31	30	28	28	26	24	22	18	0
	映画館の便所	3860	3814	4114	4188	4586	4817	4981	6044	721	641	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	映画館の喫煙室	3860	3814	4114	4188	4586	4817	4981	6044	1443	353	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	図書館の図書室	1410	1327	1232	1256	1274	1372	1375	1735	0	488	52	51	48	46	44	40	37	30	90
	図書館のロビー	2379	2292	2464	2513	2708	2875	2938	3568	0	360	52	51	48	46	44	40	37	30	0
	図書館の便所	2379	2292	2464	2513	2708	2875	2938	3568	405	360	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	図書館の喫煙室	2379	2292	2464	2513	2708	2875	2938	3568	809	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	博物館の展示室	1167	1088	967	977	965	1024	1004	1219	0	261	8	8	7	7	7	6	5	4	0
	博物館のロビー	1992	1917	2049	2084	2226	2367	2408	2927	0	288	52	51	48	46	44	40	37	30	0
	博物館の便所	1992	1917	2049	2084	2226	2367	2408	2927	324	288	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	博物館の喫煙室	1992	1917	2049	2084	2226	2367	2408	2927	647	158	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇場の舞台	2853	2760	2870	2987	3262	3387	3596	4571	0	441	212	208	194	189	180	163	149	121	0
	劇場の楽屋	904	892	913	952	1027	1085	1136	1444	0	299	42	42	39	38	36	33	30	24	0
	劇場の客席	2853	2760	2870	2987	3262	3387	3596	4571	0	265	212	208	194	189	180	163	149	121	0
	劇場のロビー	1788	1732	1827	1875	2014	2109	2176	2647	0	265	42	42	39	38	36	33	30	24	0
	劇場の便所	1788	1732	1827	1875	2014	2109	2176	2647	298	265	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇場の喫煙室	1788	1732	1827	1875	2014	2109	2176	2647	595	146	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	競馬場又は競輪場の客席	1700	1647	1681	1739	1805	1965	2020	2595	0	298	117	115	108	105	99	90	83	67	325
	競馬場又は競輪場の券売場	1281	1249	1343	1363	1447	1532	1553	1878	0	298	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	競馬場又は競輪場の店舗	1281	1249	1343	1363	1447	1532	1553	1878	0	298	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	競馬場又は競輪場のロビー	1281	1249	1343	1363	1447	1532	1553	1878	0	325	29	29	27	26	25	23	21	17	0
	競馬場又は競輪場の便所	1281	1249	1343	1363	1447	1532	1553	1878	411	325	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	競馬場又は競輪場の喫煙室	1281	1249	1343	1363	1447	1532	1553	1878	823	179	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社寺の本殿	3329	3183	3134	3244	3503	3581	3736	4765	0	198	212	208	194	189	180	163	149	121	0
	社寺のロビー	1971	1890	2026	2064	2221	2325	2387	2898	0	294	42	42	39	38	36	33	30	24	0
	社寺の便所	1971	1890	2026	2064	2221	2325	2387	2898	331	294	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社寺の喫煙室	1971	1890	2026	2064	2221	2325	2387	2898	661	162	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カラオケボックス	4925	5129	4263	4529	4864	4994	4978	5356	1154	1368	123	121	113	110	105	95	87	70	233
	ポーリング場	2641	2640	2988	3048	3371	3529	3649	4376	673	798	31	30	28	28	26	24	22	18	445
	ばちんこ屋	3451	3433	3252	3399	3603	3687	3656	4471	625	1019	154	151	141	138	131	119	109	88	3139
	厨房	0	0	0	0	0	0	0	0	7027	644	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械室	0	0	0	0	0	0	0	0	769	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電気室	0	0	0	0	0	0	0	0	1539	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湯沸室等	0	0	0	0	0	0	0	0	176	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
食品庫等	0	0	0	0	0	0	0	0	351	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
印刷室等	0	0	0	0	0	0	0	0	351	213	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
屋内駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	1562	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
廃棄物保管場所等	0	0	0	0	0	0	0	0	1054	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
工場等	倉庫	0	0	0	0	0	0	0	0	211	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	屋外駐車場又は駐輪場	0	0	0	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

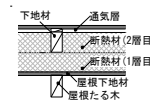

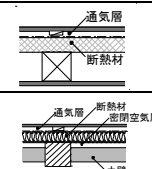
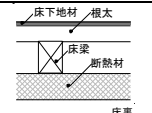
別表 3

木造住宅 充填断熱工法の仕様例			
部位	熱貫流率(単位 1平方メートル1度につきワット)	仕様の詳細	断面構成図
屋根	0.17	たるき間にRが7.5以上の断熱材(厚さ265ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.043以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.24	たるき間にRが5.2以上の断熱材(厚さ185ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.043以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
天井	0.17	内装下地材の上面にRが5.7以上の断熱材を敷き込み、かつ、Rが0.043以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.24	内装下地材の上面にRが4.0以上の断熱材を敷き込み、かつ、Rが0.043以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
外壁	0.35	軸組の外側にRが1.3以上の断熱材(厚さ25ミリメートル以上)を張り付け、かつ、軸組の間にRが2.2以上の断熱材(厚さ100ミリメートル以上)を充填した断熱構造とする場合	
	0.53	軸組の間にRが2.2以上の断熱材(厚さ85ミリメートル以上)を充填した断熱構造とする場合	
	0.92	土壁(厚さ50ミリメートル以上)の外側で軸組の間にRが0.9以上の断熱材(厚さ20ミリメートル以上)を充填した断熱構造とする場合	
床	0.24	床裏が外気に接する場合であって、根太の間及び大引又は床梁の間に合計してRが5.2以上の断熱材を充填し、かつ、Rが0.075以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.34	次のイ又はロのいずれかに該当する場合 イ 床裏が外気に接する場合であって、根太の間にRが3.9以上の断熱材(厚さ135ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.075以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合 ロ 床裏が外気に接しない場合であって、根太の間にRが3.7以上の断熱材(厚さ130ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.075以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
		次のイ又はロのいずれかに該当する場合 イ 床裏が外気に接する場合であって、大引又は床梁の間にRが3.4以上の断熱材(厚さ120ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.15以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合 ロ 床裏が外気に接しない場合であって、大引又は床梁の間にRが3.3以上の断熱材(厚さ120ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.15以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
		次のイ又はロのいずれかに該当する場合 イ 床裏が外気に接する場合であって、大引又は床梁の間にRが4.0以上の断熱材(厚さ90ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.15以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合 ロ 床裏が外気に接しない場合であって、大引又は床梁の間にRが3.7以上の断熱材(厚さ85ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.15以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.48	床裏が外気に接しない場合であって、根太の間にRが2.4以上の断熱材(厚さ85ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.075以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
		床裏が外気に接しない場合であって、大引又は床梁の間にRが2.2以上の断熱材(厚さ75ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.15以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合 床裏が外気に接しない場合であって、大引又は床梁の間にRが2.4以上の断熱材(厚さ55ミリメートル以上)を充填し、かつ、Rが0.15以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
基礎	0.27	鉄筋コンクリート造の基礎の外側又は内側にRが3.5以上の断熱材を張り付けた断熱構造の場合	

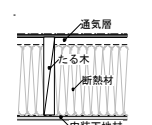
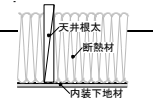
		鉄筋コンクリート造の基礎の両側に、合計して R が 3.5 以上の断熱材を張り付けた断熱構造の場合	
0.52		鉄筋コンクリート造の基礎の外側又は内側に R が 1.7 以上の断熱材を張り付けた断熱構造の場合	
1.38		鉄筋コンクリート造の基礎の外側又は内側に R が 0.5 以上の断熱材を張り付けた断熱構造の場合	
4.45		無断熱の鉄筋コンクリート構造の場合	

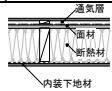
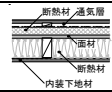
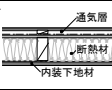
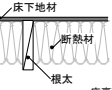
1 各部位の日射熱取得率は、それぞれの熱貫流率の値に 0.034 を乗じ、かつ熱橋の影響を考慮することにより求められる。以下同じ。  
2 表中の R は熱抵抗値を示し、「単位は 1 ワットにつき平方メートル・度」とする。以下同じ。  
3 単位住戸において複数の住宅の種類又は断熱材の施工法を採用している場合にあっては、それぞれの部位の構造又は断熱材の施工法に応じた各部位の熱貫流率の値を用いることができるものとする。以下同じ。  
4 土間床等の外周部の線熱貫流率は 1.8 (単位は 1 ワットにつきメートル・度) とする。

別表 4




木造住宅 外張断熱工法の仕様例			
部位	熱貫流率[W/(m <sup>2</sup> ・K)]	仕様の詳細	断面構成図
屋根	0.17	R が 0.075 以上の屋根下地材等の上に、R が 6.3 以上の断熱材を外張りした断熱構造とする場合	
	0.24	R が 0.075 以上の屋根下地材等の上に、R が 4.4 以上の断熱材を外張りした断熱構造とする場合	
外壁	0.35	軸組の外側に R が 3.0 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
		軸組の外側に R が 1.9 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
	0.53	軸組の外側に R が 1.7 以上の断熱材を張り付け、かつ、軸組の間に土壁(厚さ 60 ミリメートル以上)を設けた断熱構造とする場合	
床	0.24	床裏が外気に接する場合であって、床梁の下側に R が 4.5 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
	0.34	床裏が外気に接する場合であって、床梁の下側に R が 3.1 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
基礎		木造住宅 充填断熱工法の仕様例と同様	

別表 5

枠組壁工法住宅 充填断熱工法の仕様例			
部位	熱貫流率[W/(m <sup>2</sup> ・K)]	仕様の詳細	断面構成図
屋根	0.17	たるき間に R が 7.5 以上の断熱材(厚さ 265 ミリメートル以上)を充填し、かつ、R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.24	たるき間に R が 5.2 以上の断熱材(厚さ 185 ミリメートル以上)を充填し、かつ、R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
天井	0.17	天井根太の間に R が 7.5 以上の断熱材(厚さ 265 ミリメートル以上)を敷き込み、かつ、R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造	

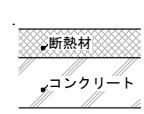
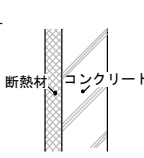
		とする場合	
	0.24	天井根太の間に R が 5.2 以上の断熱材(厚さ 185 ミリメートル以上)を敷き込み、かつ、R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
外壁	0.35	壁枠組材の間に R が 3.7 以上の断熱材を充填し、かつ、R が 0.046 以上の面材及び R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
		壁枠組材の外側に R が 0.9 以上の断熱材を張り付け、壁枠組材の間に R が 2.7 以上の断熱材を充填し、かつ、R が 0.046 以上の面材及び R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.53	壁枠組材の間に R が 2.3 以上の断熱材を充填し、かつ、R が 0.047 以上の面材及び R が 0.043 以上の内装下地材を用いた断熱構造とする場合	
床	0.24	床裏が外気に接する場合であって、根太の間に R が 5.1 以上の断熱材(厚さ 180 ミリメートル以上)を充填し、かつ、R が 0.075 以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
	0.34	次のイ又はロのいずれかに該当する場合 イ 床裏が外気に接する場合であって、根太の間に R が 3.5 以上の断熱材(厚さ 125 ミリメートル以上)を充填し、かつ、R が 0.075 以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合 ロ 床裏が外気に接しない場合であって、根太の間に R が 3.3 以上の断熱材(厚さ 120 ミリメートル以上)を充填し、かつ、R が 0.075 以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合	
		0.48	床裏が外気に接しない場合であって、根太の間に R が 2.2 以上の断熱材(厚さ 80 ミリメートル以上)を充填し、かつ、R が 0.075 以上の床下地材を用いた断熱構造とする場合
基礎	木造住宅 充填断熱工法の仕様例と同様		

別表 6

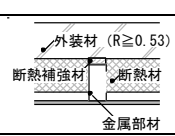
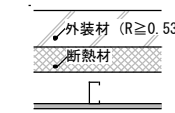
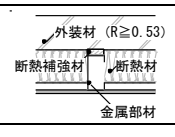
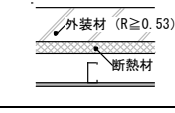
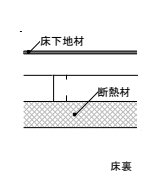
鉄筋コンクリート造等の住宅 内断熱工法の仕様例			
部位	熱貫流率[W/(m <sup>2</sup> ・K)]	仕様の詳細	断面構成図
屋根	0.27	屋根コンクリートスラブの下側(室内側)に、R が 3.6 以上の断熱材を打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.35	屋根コンクリートスラブの下側(室内側)に、R が 2.7 以上の断熱材を打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.37	屋根コンクリートスラブの下側(室内側)に、R が 2.5 以上の断熱材を打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
外壁	0.39	コンクリートの内側(室内側)に、R が 2.4 以上の断熱材を貼付け、打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.49	コンクリートの内側(室内側)に、R が 1.9 以上の断熱材を貼付け、打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.75	コンクリートの内側(室内側)に、R が 1.1 以上の断熱材を貼付け、打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
床	0.27	床裏が外気に接する場合であって、コンクリートスラブの下側(外気側)に、R が 3.5 以上の断熱材を打込み、貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.32	床裏が外気に接する場合であって、コンクリートスラブの下側(外気側)に、R が 2.9 以上の断熱材を打込み、貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.37	床裏が外気に接する場合であって、コンクリートスラブの下側(外気側)に、R が 2.5 以上の断熱材を打込み、貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.38	床裏が外気に接しない場合であって、コンクリートスラブの下側(外気側)に、R が 2.3 以上の断熱材を打込み、貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.46	床裏が外気に接しない場合であって、コンクリートスラブの下側(外気側)に、R が 1.8 以上の断熱材を打込み、貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合	

	0.53	床裏が外気に接しない場合であって、コンクリートスラブの下側(外気側)に、R が 1.5 以上の断熱材を打込み、貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合	
基礎	木造住宅 充填断熱工法の仕様例と同様		
1 表中の熱貫流率は構造熱橋部により貫流する熱量を除いた値とする。以下同じ。			

別表 7

鉄筋コンクリート造等の住宅 外断熱工法の仕様例			
部位	熱貫流率[W/(m <sup>2</sup> ・K)]	仕様の詳細	断面構成図
屋根	0.32	屋根コンクリートスラブの上側(外気側)に、R が 3.0 以上の断熱材を貼付けた断熱構造とする場合	
	0.41	屋根コンクリートスラブの上側(外気側)に、R が 2.3 以上の断熱材を貼付けた断熱構造とする場合	
	0.43	屋根コンクリートスラブの上側(外気側)に、R が 2.2 以上の断熱材を貼付けた断熱構造とする場合	
外壁	0.49	コンクリートの外側(外気側)に、R が 1.9 以上の断熱材を貼付け、打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.58	コンクリートの外側(外気側)に、R が 1.5 以上の断熱材を貼付け、打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
	0.86	コンクリートの外側(外気側)に、R が 1.0 以上の断熱材を貼付け、打込み、又は吹付けた断熱構造とする場合	
床	鉄筋コンクリート造等の住宅 内断熱工法の仕様と同様		
基礎	木造住宅 充填断熱工法の仕様例と同様		

別表 8

鉄骨造の住宅の仕様例			
部位	熱貫流率[W/(m <sup>2</sup> ・K)]	仕様の詳細	断面構成図
天井	木造住宅 充填断熱工法の仕様例と同様(金属熱橋が存在しない場合に限る。)		
外壁	0.35	R が 0.53 以上の外装材で、断熱層を貫通する金属部材間に R が 4.1 以上の断熱材を充填し、R が 0.72 以上の金属部材の断熱補強材を設けた断熱構造とする場合	
		R が 0.53 以上の外装材の内側に、R が 2.2 以上の断熱材を貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合(ただし、断熱材を貫通する金属熱橋が存在しない場合に限る。)	
	0.53	R が 0.53 以上の外装材で、断熱層を貫通する金属部材間に R が 2.6 以上の断熱材を充填し、R が 0.33 以上の金属部材の断熱補強材を設けた断熱構造とする場合	
		R が 0.53 以上の外装材の内側に、R が 1.3 以上の断熱材を貼付け、又は吹付けた断熱構造とする場合(ただし、断熱材を貫通する金属熱橋が存在しない場合に限る。)	
床	0.24	床裏が外気に接する場合であって、床梁の下側に R が 4.5 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
	0.34	床裏が外気に接する場合であって、床梁の下側に R が 3.2 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
		床裏が外気に接しない場合であって、床梁の下側に R が 3.0 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合	
0.48	床裏が外気に接しない場合であって、床梁の下側に R が 2.0 以上の断熱材を張り付けた断熱構造とする場合		
基礎	木造住宅 充填断熱工法の仕様例と同様		

別表 9

地域区分	住宅全体を連続的に暖房する方式	居室のみを暖房する方式			
		主たる居室		その他居室	
		連続運転	間歇運転	連続運転	間歇運転
1	1.61	1.59	1.21	1.59	1.22
2	1.46	1.66	1.22	1.66	1.24
3	1.32	1.63	1.22	1.63	1.23
4	1.30	1.60	1.21	1.60	1.23
5	1.20	1.53	1.05	1.53	1.04
6	1.09	1.57	0.96	1.57	1.00
7	1.12	1.63	1.01	1.63	1.34
8					

別表 10

地域区分	都道府県名	市町村
1	北海道	旭川市、釧路市、帯広市、北見市、夕張市、網走市、稚内市、紋別市、士別市、名寄市、根室市、深川市、富良野市、伊達市（旧大滝村に限る。）、ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町、沼田町、幌加内町、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、小平町、苫前町、羽幌町、遠別町、天塩町、幌延町、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町、豊富町、大空町、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、むかわ町（旧穂別町に限る。）、日高町（旧日高町に限る。）、平取町、新ひだか町（旧静内町に限る。）、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、大樹町、広尾町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町、別海町、中標津町、標津町、羅臼町
2	北海道	札幌市、函館市（旧戸井町、旧恵山町、旧鍛法華村、旧南茅部町に限る。）、千歳市、石狩市、小樽市、室蘭市、北斗市、伊達市（旧伊達市に限る。）、岩見沢市、芦別市、恵庭市、江別市、砂川市、歌志内市、三笠市、赤平市、滝川市、登別市、苫小牧市、美唄市、北広島市、留萌市、八雲町（旧八雲町に限る。）、森町、せたな町（旧瀬棚町に限る。）、日高町（旧門別町に限る。）、洞爺湖町、むかわ町（旧鶴川町に限る。）、安平町、新ひだか町（旧三石町に限る。）、豊浦町、蘭越町、雨竜町、秩父別町、北竜町、妹背牛町、浦河町、奥尻町、浦臼町、月形町、新十津川町、鹿部町、岩内町、共和町、七飯町、

		上砂川町、奈井江町、南幌町、神恵内村、泊村、古平町、長万部町、黒松内町、清水町、新冠町、今金町、新篠津村、当別町、積丹町、増毛町、初山別村、白老町、えりも町、厚真町、壮瞥町、栗山町、長沼町、由仁町、仁木町、赤井川村、余市町、様似町、利尻町、利尻富士町、礼文町
	青森県	十和田市（旧十和田湖町に限る。）、七戸町（旧七戸町に限る。）、田子町
	岩手県	久慈市（旧山形村に限る。）、八幡平市、葛巻町、岩手町、西和賀町
3	北海道	函館市（旧函館市に限る。）、松前町、福島町、知内町、木古内町、八雲町（旧熊石町に限る。）、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、せたな町（旧大成町、旧北檜山町に限る。）、島牧村、寿都町
	青森県	青森市（旧浪岡町に限る。）、弘前市、八戸市、平川市、黒石市、五所川原市、十和田市（旧十和田市に限る。）、三沢市、むつ市、つがる市、西目屋村、藤崎町、平内町、外ヶ浜町、今別町、蓬田村、鮎ヶ沢町、大鱈町、田舎館村、板柳町、中泊町、鶴田町、野辺地町、おいらせ町、六戸町、横浜町、東北町、七戸町（旧天間林村に限る。）、六ヶ所村、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、五戸町、南部町、階上町、新郷村
	岩手県	盛岡市、宮古市（旧新里村、旧川井村に限る。）、奥州市、花巻市、北上市、久慈市（旧久慈市に限る。）、遠野市、二戸市、一関市（旧藤沢町、旧千厩町、旧東山町、旧室根村、旧川崎村に限る。）、滝沢市、雫石町、紫波町、矢巾町、金ヶ崎町、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村、軽米町、洋野町、野田村、九戸村、一戸町
	宮城県	栗原市（旧栗駒町、旧一迫町、旧鶯沢町、旧花山村に限る。）、
	秋田県	秋田市（旧河辺町に限る。）、能代市（旧二ツ井町に限る。）、横手市、大館市、湯沢市、大仙市、鹿角市、由利本荘市（旧東由利町に限る。）、仙北市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村、三種町（旧琴丘町に限る。）、藤里町、五城目町、八郎潟町、井川町、美郷町、羽後町、東成瀬村
	山形県	米沢市、鶴岡市（旧朝日村に限る。）、新庄市、寒河江市、長井市、尾花沢市、南陽市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
	福島県	会津若松市（旧河東町に限る。）、白河市（旧大信村に限る。）、須賀川市（旧長沼町に限る。）、喜多方市（旧喜多方市、旧熱塩加納村、旧山都町、旧高郷村に限る。）、田村市（旧滝根町、旧大越町、旧常葉町、旧船引町に限る。）、大玉村、天栄村、下郷町、檜枝岐村、只見町、南会津町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、三島町、金山町、昭和村、矢吹町、平田村、小野町、

		川内村、飯舘村
	栃木県	日光市（旧日光市、旧足尾町、旧栗山村、旧藤原町に限る。）、那須塩原市（旧塩原町に限る。）
	群馬県	沼田市（旧白沢村、旧利根村に限る。）、長野原町、嬭恋村、草津町、中之条町（旧六合村に限る。）、片品村、川場村、みなかみ町（旧水上町に限る。）
	新潟県	十日町市（旧中里村に限る。）、魚沼市（旧入広瀬村に限る。）、津南町
	山梨県	富士吉田市、北杜市（旧小淵沢町に限る。）、西桂町、忍野村、山中湖村、富士河口湖町（旧河口湖町に限る。）
	長野県	長野市（旧豊野町、旧戸隠村、旧鬼無里村に限る。）、松本市（旧波田町、旧奈川村、旧安曇村、旧梓川村に限る。）、上田市（旧真田町、旧武石村に限る。）、須坂市、小諸市、伊那市（旧伊那市、旧高遠町に限る。）、駒ヶ根市、中野市（旧中野市に限る。）、大町市、飯山市、茅野市、塩尻市、佐久市、千曲市（旧更埴市に限る。）、東御市、小海町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、佐久穂町、軽井沢町、御代田町、立科町、長和町、富士見町、原村、辰野町、箕輪町、南箕輪村、宮田村、阿智村（旧浪合村に限る。）、平谷村、下條村、上松町、木祖村、木曾町、山形村、朝日村、池田町、松川村、白馬村、小谷村、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町
	岐阜県	高山市、飛騨市（旧古川町、旧河合村に限る。）、白川村
4	青森県	青森市（旧青森市に限る。）、深浦町
	岩手県	宮古市（旧宮古市、旧田老町に限る。）、大船渡市、一関市（旧一関市、旧花泉町、旧大東町に限る。）、陸前高田市、釜石市、平泉町
	宮城県	仙台市、石巻市、塩竈市、大崎市、気仙沼市、白石市、名取市、角田市、多賀城市、岩沼市、栗原市（旧築館町、旧若柳町、旧高清水町、旧瀬峰町、旧金成町、旧志波姫町に限る。）、登米市、東松島市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村、加美町、色麻町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町
	秋田県	秋田市（旧秋田市、旧雄和町に限る。）、能代市（旧能代市に限る。）、男鹿市、由利本荘市（旧本荘市、旧矢島町、旧岩城町、旧由利町、旧西目町、旧鳥海町、旧大内町に限る。）、潟上市、にかほ市、三種町（旧山本町、旧八竜町に限る。）、八峰町、大潟村
	山形県	山形市、鶴岡市（旧鶴岡市、旧藤島町、旧羽黒町、旧櫛引町、旧温海町に限る。）、酒田市、上山市、村山市、天童市、東根市、山辺町、中山町、庄内町、三川町、遊佐町



福島県	福島市、会津若松市（旧会津若松市、旧北会津村に限る。）、郡山市、白河市（旧白河市、旧表郷村、旧東村に限る。）、須賀川市（旧須賀川市、旧岩瀬村に限る。）、相馬市、南相馬市、二本松市、伊達市、本宮市、喜多方市（旧塩川町に限る。）、田村市（旧都路村に限る。）、桑折町、国見町、川俣町、鏡石町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、西郷村、泉崎村、中島村、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、玉川村、浅川町、古殿町、三春町、浪江町、葛尾村、新地町
茨城県	土浦市（旧新治村に限る。）、石岡市、常陸大宮市（旧美和村に限る。）、笠間市（旧岩間町に限る。）、筑西市（旧下館市、旧明野町、旧協和町に限る。）、かすみがうら市（旧千代田町に限る。）、桜川市、小美玉市（旧小川町、旧美野里町に限る。）、大子町
栃木県	日光市（旧今市市に限る。）、大田原市、矢板市、那須塩原市（旧黒磯市、旧西那須野町に限る。）、塩谷町、さくら市（旧喜連川町に限る。）、那珂川町、那須町
群馬県	高崎市（旧倉渕村に限る。）、桐生市（旧黒保根村に限る。）、沼田市（旧沼田市に限る。）、渋川市（旧小野上村、旧赤城村に限る。）、安中市（旧松井田町に限る。）、みどり市（旧勢多郡東村に限る。）、上野村、神流町、下仁田町、南牧村、中之条町（旧中之条町に限る。）、高山村、東吾妻町、昭和村、みなかみ町（旧月夜野町、旧新治村に限る。）、
埼玉県	秩父市（旧大滝村に限る。）、小鹿野町（旧両神村に限る。）、
東京都	奥多摩町
新潟県	長岡市（旧長岡市、旧栃尾市、旧越路町、旧山古志村、旧川口町、旧小国町に限る。）、三条市（旧下田村に限る。）、小千谷市、加茂市、十日町市（旧十日町市、旧川西町、旧松代町、旧松之山町に限る。）、妙高市、五泉市、阿賀野市（旧安田町、旧水原町に限る。）、魚沼市（旧堀之内町、旧小出町、旧湯之谷村、旧広神村、旧守門村に限る。）、村上市（旧朝日村に限る。）、南魚沼市、柏崎市（旧高柳町に限る。）、上越市（旧安塚町、旧浦川原村、旧大島村、旧牧村、旧中郷村、旧板倉町、旧清里村に限る。）、田上町、阿賀町、湯沢町、関川村
富山県	富山市（旧大沢野町、旧大山町、旧細入村に限る。）、黒部市（旧宇奈月町に限る。）、南砺市（旧平村、旧上平村、旧利賀村に限る。）、上市町、立山町
石川県	白山市（旧吉野谷村、旧尾口村、旧白峰村に限る。）、
福井県	大野市（旧和泉村に限る。）、
山梨県	甲府市（旧上九一色村に限る。）、都留市、山梨市（旧三富村に限る。）、北杜市（旧須玉町、旧高根町、旧長坂町、旧大泉村、旧白州町、旧武川村に限る。）、笛吹市（旧芦川村に限る。）、鳴沢村、富士河口湖町（旧勝山村、旧足和田村に限る。）、小菅村、丹波山村

	長野県	長野市（旧長野市、旧信州新町、旧大岡村、旧中条村に限る。）、松本市（旧松本市、旧四賀村に限る。）、上田市（旧上田市、旧丸子町に限る。）、岡谷市、飯田市、諏訪市、安曇野市、千曲市（旧上山田町、旧戸倉町に限る。）、中野市（旧豊田村に限る。）、伊那市（旧長谷村に限る。）、青木村、下諏訪町、飯島町、中川村、松川町、高森町、阿南町、阿智村（旧阿智村に限る。）、根羽村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、南木曾町、王滝村、大桑村、筑北村、麻績村、生坂村、坂城町、小川村、栄村
	岐阜県	中津川市（旧坂下町、旧川上村、旧加子母村、旧付知町、旧福岡町、旧蛭川村に限る。）、恵那市（旧串原村、旧上矢作町に限る。）、飛騨市（旧宮川村、旧神岡町に限る。）、郡上市（旧八幡町、旧大和町、旧白鳥町、旧高鷲村、旧明宝村、旧和良村に限る。）、下呂市（旧萩原町、旧小坂町、旧下呂町、旧馬瀬村に限る。）、東白川村
	愛知県	豊田市（旧稲武町に限る。）
	兵庫県	養父市（旧関宮町に限る。）、香美町（旧村岡町、旧美方町に限る。）
	奈良県	奈良市（旧都祁村に限る。）、五條市（旧大塔村に限る。）、生駒市、宇陀市（旧室生村に限る。）、平群町、野迫川村
	和歌山県	かつらぎ町（旧花園村に限る。）、高野町
	鳥取県	倉吉市（旧関金町に限る。）、若桜町、日南町、日野町、江府町
	島根県	奥出雲町、飯南町、美郷町（旧大和村に限る。）、邑南町（旧羽須美村、旧瑞穂町に限る。）
	岡山県	津山市（旧阿波村に限る。）、高梁市（旧備中町に限る。）、新見市、真庭市（旧北房町、旧勝山町、旧湯原町、旧美甘村、旧川上村、旧八束村、旧中和村に限る。）、新庄村、鏡野町（旧富村、旧奥津町、旧上齋原村に限る。）
	広島県	府中市（旧上下町に限る。）、三次市（旧甲奴町、旧君田村、旧布野村、旧作木村、旧吉舎町、旧三良坂町に限る。）、庄原市、廿日市市（旧佐伯町、旧吉和村に限る。）、安芸高田市（旧八千代町、旧美土里町、旧高宮町に限る。）、安芸太田町（旧筒賀村、旧戸河内町に限る。）、北広島町（旧芸北町、旧大朝町、旧千代田町に限る。）、世羅町（旧甲山町、旧世羅町に限る。）、神石高原町
	徳島県	三好市（旧東祖谷山村に限る。）
	高知県	いの町（旧本川村に限る。）
5	福島県	いわき市、広野町、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町
	茨城県	水戸市、かすみがうら市（旧霞ヶ浦町に限る。）、つくばみらい市、つくば市、ひたちなか市、稲敷市、下妻市、笠間市（旧笠間市、旧友部町に限る。）、牛久市、結城市、古河市、行方市、高萩市、坂東市、取手市、守谷市、小美玉市（旧玉里村に限る。）、常総市、常陸太田市、常陸大宮市（旧御前山村、旧大宮町、旧山方町、旧緒川村に限る。）、筑西市（旧関城町に限る。）、土浦市（旧土浦市に限る。）、那珂市、日立市、鉾田市、北茨城市、龍ヶ崎市、阿見

	町、河内町、美浦村、境町、五霞町、八千代町、茨城町、城里町、大洗町、東海村、利根町
栃木県	宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、小山市、真岡市、さくら市（旧氏家町に限る。）、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町、野木町、高根沢町
群馬県	前橋市、みどり市（旧笠懸町、旧大間々町に限る。）、安中市（旧安中市に限る。）、伊勢崎市、館林市、桐生市（旧桐生市、旧新里村に限る。）、高崎市（旧高崎市、旧榛名町、旧箕郷町、旧群馬町、旧新町、旧吉井町に限る。）、渋川市（旧渋川市、旧北橋村、旧子持村、旧伊香保町に限る。）、太田市、藤岡市、富岡市、甘楽町、玉村町、吉岡町、榛東村、大泉町、板倉町、明和町、邑楽町
埼玉県	さいたま市、ふじみ野市、羽生市、桶川市、加須市、久喜市、狭山市、熊谷市（旧大里村、旧江南町、旧妻沼町に限る。）、幸手市、行田市（旧行田市に限る。）、鴻巣市、坂戸市、志木市、春日部市、所沢市、上尾市、新座市、深谷市、川越市、秩父市（旧秩父市、旧吉田町、旧荒川村に限る。）、鶴ヶ島市、日高市、入間市、飯能市、富士見市、北本市、本庄市、蓮田市、東松山市、白岡市、上里町、神川町、美里町、寄居町、横瀬町、皆野町、小鹿野町（旧小鹿野町に限る。）、長瀨町、東秩父村、宮代町、越生町、三芳町、毛呂山町、ときがわ町、滑川町、吉見町、小川町、川島町、鳩山町、嵐山町、杉戸町、伊奈町
千葉県	野田市、香取市（旧佐原市に限る。）、成田市、佐倉市、八千代市、我孫子市、印西市、白井市、酒々井町、富里町、栄町、神崎町
東京都	八王子市、立川市、青梅市、昭島市、小平市、日野市、東村山市、福生市、東大和市、清瀬市、武蔵村山市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村
神奈川県	秦野市、相模原市（旧城山町、旧津久井町、旧相模湖町、旧藤野町に限る。）、南足柄市、開成町、山北町、松田町、大井町、清川村
新潟県	新潟市、長岡市（旧中之島町、旧三島町、旧与板町、旧和島村、旧寺泊町に限る。）、三条市（旧三条市、旧栄町に限る。）、柏崎市（旧柏崎市、旧西山町に限る。）、新発田市、見附市、村上市（旧村上市、旧荒川町、旧神林村、旧山北町に限る。）、燕市、糸魚川市、上越市（旧上越市、旧柿崎町、旧大潟町、旧頸城村、旧吉川町、旧三和村、旧名立町に限る。）、阿賀野市（旧京ヶ瀬村、旧笹神村に限る。）、佐渡市、胎内市、聖籠町、弥彦村、出雲崎町、刈羽村、粟島浦村

富山県	富山市（旧富山市、旧八尾町、旧婦中町、旧山田村に限る。）、高岡市、黒部市（旧黒部市に限る。）、射水市、砺波市、南砺市（旧城端町、旧井波町、旧井口村、旧福野町、旧福光町に限る。）、魚津市、氷見市、滑川市、小矢部市、舟橋村、入善町、朝日町
石川県	かほく市、加賀市、七尾市、能美市、白山市（旧鶴来町、旧河内村、旧鳥越村に限る。）、輪島市、小松市、珠州市、羽咋市、川北町、津幡町、内灘町、穴水町、志賀町、宝達志水町、中能登町、能登町
福井県	福井市（旧福井市、旧美山町に限る。）、あわら市、おおい町、越前市、坂井市、鯖江市、勝山市、小浜市、高浜町、大野市（旧大野市に限る。）、越前町（旧朝日町、旧宮崎村に限る。）、南越前町（旧南条町、旧今庄町に限る。）、池田町、永平寺町、若狭町
山梨県	甲府市（旧甲府市、旧中道町に限る。）、山梨市（旧山梨市、旧牧丘町に限る。）、甲州市、甲斐市、上野原市、中央市、笛吹市（旧春日居町、旧石和町、旧御坂町、旧一宮町、旧八代町、旧境川村に限る。）、南アルプス市、北杜市（旧明野村に限る。）、大月市、韮崎市、富士川町、早川町、昭和町、道志村、市川三郷町、身延町、南部町（旧南部町に限る。）
長野県	阿智村（旧清内路村に限る。）、大鹿村
岐阜県	山県市、恵那市（旧恵那市、旧岩村町、旧山岡町、旧明智町に限る。）、本巣市（旧根尾村に限る。）、郡上市（旧美並村に限る。）、下呂市（旧金山町に限る。）、中津川市（旧中津川市、旧長野県木曾郡山口村に限る。）、関市、可児市、多治見市、大垣市（上石津町に限る。）、美濃市、瑞浪市、美濃加茂市、土岐市、養老町、関ヶ原町、安八町、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、御嵩町、揖斐川町（旧谷汲村、旧春日村、旧久瀬村、旧藤橋村、旧坂内村に限る。）
静岡県	浜松市（旧水窪町に限る。）、御殿場市、小山町、川根本町
愛知県	豊田市（旧豊田市、旧藤岡町、旧小原村、旧足助町、旧下山村、旧旭町に限る。）、設楽町、豊根村、東栄町
三重県	伊賀市、亀山市（旧関町に限る。）、松阪市（旧飯南町、旧飯高町に限る。）、津市（旧美杉村に限る。）、名張市
滋賀県	大津市（旧志賀町に限る。）、長浜市、東近江市、米原市、野洲市、彦根市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、湖南市、甲賀市、高島市、愛荘町、日野町、竜王町、豊郷町、甲良町、多賀町
京都府	京都市（旧京北町に限る。）、京丹後市（旧大宮町、旧久美浜町に限る。）、南丹市、福知山市、木津川市、舞鶴市、綾部市、宮津市、亀岡市、城陽市、八幡市、京田辺市、京丹波町、大山崎町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村、与謝野町
大阪府	堺市（旧美原町に限る。）、高槻市、八尾市、富田林市、松原市、大東市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、東大阪市、島本町、豊能町、能勢町、太子町、

	河南町、千早赤阪村
兵庫県	姫路市（旧夢前町、旧香寺町、旧安富町に限る。）、豊岡市（旧豊岡市、旧城崎町、旧日高町、旧出石町、旧但東町に限る。）、養父市（旧八鹿町、旧養父町、旧大屋町に限る。）、たつの市（旧龍野市、旧新宮町に限る。）、丹波市、朝来市、加東市、三木市（旧吉川町に限る。）、宍粟市、篠山市、相生市、三田市、西脇市、神河町、多可町、佐用町、新温泉町、猪名川町、市川町、福崎町、上郡町
奈良県	奈良市（旧奈良市、旧月ヶ瀬村に限る。）、宇陀市（旧大宇陀町、旧菟田野町、旧榛原町に限る。）、葛城市、五條市（旧五條市、旧西吉野村に限る。）、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、香芝市、山添村、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、曾爾村、御杖村、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村
和歌山県	橋本市、田辺市（旧龍神村、旧本宮町に限る。）、かつらぎ町（旧かつらぎ町に限る。）、有田川町（旧清水町に限る。）、九度山町
鳥取県	鳥取市（旧国府町、旧河原町、旧用瀬町、旧佐治村、旧鹿野町に限る。）、倉吉市（旧倉吉市に限る。）、八頭町、南部町、伯耆町、岩美町、三朝町、智頭町
島根県	松江市（旧八雲村、旧玉湯町、旧東出雲町に限る。）、出雲市（旧佐田町に限る。）、安来市、江津市（旧桜江町に限る。）、浜田市（旧金城町、旧旭町、旧弥栄村に限る。）、雲南市、益田市（旧美都町、旧匹見町に限る。）、美郷町（旧邑智町に限る。）、邑南町（旧石見町に限る。）、吉賀町、津和野町、川本町
岡山県	岡山市（旧御津町、旧建部町、旧瀬戸町に限る。）、備前市、美作市、井原市、高梁市（旧高梁市、旧有漢町、旧成羽町、旧川上町に限る。）、真庭市（旧落合町、旧久世町に限る。）、赤磐市、津山市（旧津山市、旧加茂町、旧勝北町、旧久米町に限る。）、吉備中央町、久米南町、美咲町、西粟倉村、勝央町、奈義町、鏡野町（旧鏡野町に限る。）、和気町
広島県	広島市（旧湯来町に限る。）、三原市（旧大和町、旧久井町に限る。）、三次市（旧三次市、旧三和町に限る。）、安芸高田市（旧吉田町、旧甲田町、旧向原町に限る。）、東広島市（旧東広島市、旧福富町、旧豊栄町、旧河内町に限る。）、尾道市（旧御調町に限る。）、府中市（旧府中市に限る。）、福山市（旧神辺町、旧新市町に限る。）、安芸太田町（旧加計町に限る。）、北広島町（旧豊平町に限る。）、世羅町（旧世羅西町に限る。）、
山口県	山口市（旧阿東町に限る。）、下関市（旧豊田町に限る。）、岩国市（旧岩国市、旧玖珂町、旧本郷村、旧周東町、旧錦町、旧美川町、旧美和町に限る。）、周南市（旧鹿野町に限る。）、萩市（旧川上村、旧むつみ村、旧旭村に限る。）、美祢市

	徳島県	三好市（旧三野町、旧池田町、旧山城町、旧井川町、旧西祖谷山村に限る。）、美馬市（旧木屋平村に限る。）、東みよし町、那賀町（旧木沢村、旧木頭村に限る。）、つるぎ町（旧半田町、旧一字村に限る。）
	愛媛県	新居浜市（旧別子山村に限る。）、西予市（旧城川町に限る。）、大洲市（旧河辺村に限る。）、砥部町（旧広田村に限る。）、内子町、久万高原町、鬼北町
	高知県	いの町（旧吾北村に限る。）、仁淀川町、津野町（旧東津野村に限る。）、本山町、大豊町、土佐町、大川村、越知町、梲原町
	福岡県	八女市（旧矢部村に限る。）
	長崎県	雲仙市（旧小浜町に限る。）
	熊本県	阿蘇市、南阿蘇村、山都町、南小国町、小国町、産山村、高森町
	大分県	大分市（旧野津原町に限る。）、宇佐市（旧院内町、旧安心院町に除く。）、杵築市（旧山香町に限る。）、佐伯市（旧宇目町に限る。）、竹田市、日田市（旧前津江村、旧中津江村、旧上津江村、旧大山町、旧天瀬町に限る。）、豊後大野市（旧緒方町、旧朝地町に限る。）、由布市（旧庄内町、旧湯布院町に限る。）、日出町、九重町、玖珠町
	宮崎県	椎葉村、高千穂町、五ヶ瀬町
6	茨城県	鹿嶋市、神栖市（旧神栖町に限る。）、潮来市
	群馬県	千代田町
	埼玉県	越谷市、吉川市、熊谷市（旧熊谷市に限る。）、戸田市、行田市（旧南河原村に限る。）、三郷市、川口市、草加市、朝霞市、八潮市、和光市、蕨市、松伏町
	千葉県	千葉市、いすみ市、鴨川市、柏市、旭市、匝瑳市、南房総市、香取市（旧小見川町、旧山田町、旧栗源町に限る。）、山武市、市川市、船橋市、館山市、木更津市、松戸市、茂原市、東金市、習志野市、勝浦市、市原市、流山市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、浦安市、四街道市、袖ヶ浦市、八街市、大網白里市、多古町、東庄町、九十九里町、芝山町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町、鋸南町、横芝光町
	東京都	東京都 23 区、武蔵野市、三鷹市、西東京市、府中市、調布市、町田市、小金井市、国分寺市、国立市、狛江市、東久留米市、多摩市、稲城市
	神奈川県	横浜市、川崎市、綾瀬市、伊勢原市、横須賀市、海老名市、鎌倉市、茅ヶ崎市、厚木市、座間市、三浦市、小田原市、逗子市、相模原市（旧相模原市に限る。）、藤沢市、平塚市、寒川町、愛川町、葉山町、真鶴町、湯河原町、箱根町、中井町、大和市、大磯町、二宮町
	石川県	金沢市、白山市（旧松任市、旧美川町に限る。）、野々市市
	福井県	福井市（旧越廼村、旧清水町に限る。）、敦賀市、美浜町、越前町（旧越前町、旧織田町に限る。）、南越前町（旧河野村に限る。）
	山梨県	南部町（旧富沢町に限る。）

岐阜県	岐阜市、瑞穂市、各務原市、本巣市（旧本巣町、旧真正町、旧糸貫町に限る。）、海津市、大垣市（旧大垣市、旧墨俣町に限る。）、羽島市、岐南町、笠松町、垂井町、神戸町、輪之内町、大野町、池田町、北方町、揖斐川町（旧揖斐川町に限る。）
静岡県	静岡市、伊豆の国市、伊豆市、掛川市、菊川市、沼津市、焼津市、袋井市、島田市、藤枝市、磐田市、浜松市（旧浜松市、旧天竜市、旧浜北市、旧春野町、旧龍山村、旧佐久間町、旧舞阪町、旧雄踏町、旧細江町、旧引佐町、旧三ヶ日町に限る。）、富士市、牧之原市、三島市、富士宮市、伊東市、裾野市、湖西市、東伊豆町、函南町、清水町、長泉町、吉田町、森町、西伊豆町（旧賀茂村に限る。）
愛知県	名古屋市、愛西市、一宮市、稲沢市、岡崎市、新城市、清須市、田原市、豊川市、北名古屋市、弥富市、豊橋市、瀬戸市、半田市、春日井市、津島市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、あま市、長久手市、みよし市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、幸田町
三重県	津市（旧津市、旧久居市、旧河芸町、旧芸濃町、旧美里村、旧安濃町、旧香良洲町、旧一志町、旧白山町に限る。）、いなべ市、伊勢市、亀山市（旧亀山市に限る。）、熊野市（旧紀和町に限る。）、桑名市、四日市市、志摩市、松阪市（旧松阪市、旧嬉野町、旧三雲町に限る。）、鈴鹿市、鳥羽市、多気町、大台町、大紀町、南伊勢町、紀北町、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町、明和町、玉城町、度会町
滋賀県	大津市（旧大津市に限る。）
京都府	京都市（旧京都市に限る。）、京丹後市（旧峰山町、旧網野町、旧丹後町、旧弥栄町に限る。）、宇治市、向日市、長岡京市、久御山町、伊根町
大阪府	大阪市、堺市（旧堺市に限る。）、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、泉佐野市、寝屋川市、河内長野市、和泉市、箕面市、門真市、摂津市、高石市、泉南市、四条畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町
兵庫県	神戸市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、加古川市、赤穂市、宝塚市、高砂市、川西市、小野市、加西市、姫路市（旧姫路市、旧家島町に限る。）、たつの市（旧揖保川町、旧御津町に限る。）、三木市（旧三木市に限る。）、洲本市、淡路市、南あわじ市、豊岡市（旧竹野町に限る。）、香美町（旧香住町に限る。）、稲美町、播磨町、太子町
和歌山県	和歌山市、有田市、岩出市、海南市、紀の川市、新宮市（旧熊野川町に限る。）、田辺市（旧田辺市、旧中辺路町、旧大塔村に限る。）、みなべ町、日高川町、有田川町（旧吉備町、旧金屋町に限る。）、紀美野町、湯浅町、印南町、

	上富田町、北山村
鳥取県	鳥取市（旧鳥取市、旧福部村、旧気高町、旧青谷町に限る。）、米子市、境港市、日吉津村、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、大山町
島根県	松江市（旧松江市、旧鹿島町、旧島根町、旧美保関町、旧宍道町、旧八束町に限る。）、出雲市（旧出雲市、旧平田市、旧斐川町、旧多伎町、旧湖陵町、旧大社町に限る。）、浜田市（旧浜田市、旧三隅町に限る。）、大田市、益田市（旧益田市に限る。）、江津市（旧江津市に限る。）、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村
岡山県	岡山市（旧岡山市、旧灘崎町に限る。）、倉敷市、総社市、笠岡市、玉野市、瀬戸内市、浅口市、矢掛町、里庄町、早島町
広島県	広島市（旧広島市に限る。）、呉市、江田島市、三原市（旧三原市、旧本郷町に限る。）、大竹市、竹原市、東広島市（旧黒瀬町、旧安芸津町に限る。）、廿日市市（旧廿日市市、旧大野町、旧宮島町に限る。）、尾道市（旧尾道市、旧因島市、旧瀬戸田町、旧向島町に限る。）、福山市（旧福山市、旧内海町、旧沼隈町に限る。）、海田町、熊野町、坂町、府中町、大崎上島町
山口県	山口市（旧山口市、旧徳地町、旧秋穂町、旧小郡町、旧阿知須町に限る。）、宇部市、下関市（旧菊川町、旧豊浦町、旧豊北町に限る。）、岩国市（旧由宇町に限る。）、光市、山陽小野田市、周南市（旧徳山市、旧新南陽市、旧熊毛町に限る。）、周防大島町、長門市、萩市（旧萩市、旧田万川町、旧須佐町、旧福栄村に限る。）、柳井市、防府市、下松市、和木町、上関町、田布施町、平生町、阿武町
徳島県	徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、阿波市、吉野川市、美馬市（旧脇町、旧美馬町、旧穴吹町に限る。）、那賀町（旧鷲敷町、旧相生町、旧上那賀町に限る。）、つるぎ町（旧貞光町に限る。）、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町
香川県	全ての市町
愛媛県	松山市、新居浜市（旧新居浜市に限る。）、今治市、西条市、西予市（旧三瓶町、旧明浜町、旧宇和町、旧野村町に限る。）、大洲市（旧大洲市、旧長浜町、旧肱川町に限る。）、東温市、八幡浜市、四国中央市、伊予市、宇和島市（旧宇和島市、旧吉田町、旧三間町に限る。）、砥部町（旧砥部町に限る。）、上島町、伊方町（旧伊方町に限る。）、松前町、松野町
高知県	高知市（旧鏡村、旧土佐山村に限る。）、四万十市、香美市、四万十町、中土佐町、津野町（旧葉山村に限る。）、黒潮町（旧佐賀町に限る。）、佐川町、日高村



	福岡県	福岡市（東区、西区、早良区に限る。）、北九州市、うきは市、みやま市、嘉麻市、久留米市、宮若市、宗像市、朝倉市、八女市（旧八女市、旧黒木町、旧上陽町、旧立花町、旧星野村に限る。）、飯塚市、福津市、柳川市、大牟田市、直方市、田川市、筑後市、大川市、行橋市、豊前市、中間市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、糸島市、古賀市、みやこ町、上毛町、築上町、筑前町、東峰村、福智町、那珂川町、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、桂川町、大刀洗町、大木町、広川町、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、苅田町、吉富町
	佐賀県	全ての市町
	長崎県	壱岐市、雲仙市（旧国見町、旧瑞穂町、旧吾妻町、旧愛野町、旧千々石町、旧南串山町に限る。）、松浦市、対馬市、島原市（旧有明町に限る。）、南島原市（旧加津佐町に限る。）、諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町
	熊本県	熊本市、合志市、山鹿市、天草市（旧五和町、旧有明町に限る。）、上天草市（旧松島町に限る。）、宇城市（旧不知火町、旧松橋町、旧小川町、旧豊野町に限る。）、菊池市、玉名市、八代市（旧坂本村、旧東陽村、旧泉村に限る。）、人吉市、荒尾市、宇土市、美里町、あさぎり町、和水町、氷川町、玉東町、南関町、長洲町、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、錦町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、苓北町
	大分県	大分市（旧大分市、旧佐賀関町に限る。）、宇佐市（旧宇佐市に限る。）、臼杵市、杵築市（旧杵築市、旧大田村に限る。）、国東市、佐伯市（旧上浦町、旧弥生町、旧本匠村、旧直川村に限る。）、中津市、日田市（旧日田市に限る。）、豊後高田市、豊後大野市（旧三重町、旧清川村、旧大野町、旧千歳村、旧犬飼町に限る。）、由布市（旧挾間町に限る。）、別府市、津久見市、姫島村
	宮崎県	都城市（旧都城市、旧山田町、旧高崎町に限る。）、延岡市（旧北方町に限る。）、小林市（旧小林市、旧須木村に限る。）、えびの市、高原町、西米良村、諸塚村、美郷町、日之影町
	鹿児島県	伊佐市、曾於市、霧島市（旧横川町、旧牧園町、旧霧島町に限る。）、さつま町、湧水町
7	茨城県	神栖市（旧波崎町に限る。）
	千葉県	銚子市
	東京都	大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村
	静岡県	熱海市、下田市、御前崎市、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町（旧西伊豆町に限る。）
	三重県	尾鷲市、熊野市（旧熊野市に限る。）、御浜町、紀宝町
	和歌山県	御坊市、新宮市（旧新宮市に限る。）、広川町、美浜町、日高町、由良町、白

		浜町、すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町、古座川町
	山口県	下関市（旧下関市に限る。）
	徳島県	牟岐町、美波町、海陽町
	愛媛県	宇和島市（旧津島町に限る。）、伊方町（旧瀬戸町、旧三崎町に限る。）、愛南町
	高知県	高知市（旧高知市、旧春野町に限る。）、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、香南市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村、いの町（旧伊野町に限る。）、大月町、三原村、黒潮町（旧大方町に限る。）
	福岡県	福岡市（博多区、中央区、南区、城南区に限る。）
	長崎県	長崎市、佐世保市、島原市（旧島原市に限る。）、平戸市、五島市、西海市、南島原市（旧口之津町、旧南有馬町、旧北有馬町、旧西有家町、旧有家町、旧布津町、旧深江町に限る。）、長与町、時津町、小値賀町、佐々町、新上五島町
	熊本県	八代市（旧八代市、旧千丁町、旧鏡町に限る。）、水俣市、上天草市（旧大矢野町、旧姫戸町、旧龍ヶ岳町に限る。）、宇城市（旧三角町に限る。）、天草市（旧本渡市、旧牛深市、旧御所浦町、旧倉岳町、旧栖本町、旧新和町、旧天草町、旧河浦町に限る。）、芦北町、津奈木町
	大分県	佐伯市（旧佐伯市、旧鶴見町、旧米水津村、旧蒲江町に限る。）
	宮崎県	宮崎市、延岡市（旧延岡市、旧北川町、旧北浦町に限る。）、日南市、日向市、串間市、西都市、都城市（旧山之口町、旧高城町に限る。）、小林市（旧野尻町に限る。）、国富町、綾町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町、三股町
	鹿児島県	鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市、枕崎市、いちき串木野市、阿久根市、奄美市、出水市、指宿市、南さつま市、霧島市（旧国分市、旧溝辺町、旧隼人町、旧福山町に限る。）、西之表市、垂水市、南九州市、日置市、姶良市、志布志市、大崎町、東串良町、肝付町、錦江町、南大隅町、中種子町、南種子町、屋久島町、大和村、宇検村、瀬戸内町、奄美市、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町、三島村、十島村、長島町
8	沖縄県	全ての市町村
備考 この表に掲げる区域は、平成 27 年 4 月 1 日における行政区画によって表示されたものとする。ただし、括弧内に記載する区域は、平成 13 年 8 月 1 日における旧行政区画によって表示されたものとする。		